

CA Desktop Migration Manager

リファレンス ガイド

12.9



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複製することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルセットで参照されている CA 製品は、以下のとおりです。

- CA Advantage® Data Transport® (CA Data Transport)
- CA Asset Intelligence
- CA APM (CA Asset Portfolio Management)
- CA Business Intelligence
- CA Common Services™
- CA DMM (CA Desktop Migration Manager)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA MDM (CA Mobile Device Management)
- CA NSM (CA Network and Systems Management)
- CA Patch Manager
- CA Process Automation
- CA Service Desk Manager
- CA WorldView™

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: CA DMM テクニカル リファレンス	9
インストールパス.....	9
第 2 章: コマンドライン インターフェース	11
コマンドの実行方法.....	11
コマンドラインの構文.....	12
コマンドラインの規則.....	12
変数.....	14
コマンドラインスイッチ.....	16
コマンドラインの例.....	23
障害復旧の例.....	24
コマンドラインの長さの超過.....	25
ユーザ コマンドラインの詳細.....	26
セキュリティマイグレーション.....	27
ユーザ コマンドラインの機能.....	27
第 3 章: コマンドラインによるウィザードのカスタマイズ	41
ユーザ インターフェース エLEMENT の無効化.....	41
CA DMM の開始ページの指定.....	42
[開始] タブの無効化コマンド.....	42
[設定] タブの無効化コマンド.....	44
[フィルタ] ページ コマンド.....	45
[デスティネーション] タブの無効化コマンド.....	45
[マイグレーション] タブの無効化コマンド.....	47
[ログ] タブの無効化コマンド.....	48
メニューその他の無効化コマンド.....	49
第 4 章: コマンドラインを使用したバックアップの再スケジュール	51
コマンドラインの構文.....	51

第 5 章: CA DMM のリターンコード	53
第 6 章: DMM Director のリターンコード	55
第 7 章: CA DMM のオプション	57
一般オプション.....	57
[詳細オプション]	63
64 ビット構成オプション	72
リアルタイムマイグレーションオプション	75
ログオプション.....	77
イベントログオプション	78
マニフェストログオプション	79
アンドゥログオプション	84
パスワードログオプション	86
デバッグログオプション	87
ネットワークログオプション	88
メディアオプション	89
自己解凍のオプション	90
最後のマイグレーション結果オプション	93
クロスオーバーの設定オプション	94
セキュリティマイグレーションオプション	95
リビジョンのオプション	98
ユーザプロファイルオプション	98
データ保護オプション	102
Merger and Acquisition.....	104
第 8 章: コマンドラインを使用した DNA ファイルの検証	105
コマンドラインの構文.....	105
コマンドラインを使用した DNA ファイルの検証	105
第 9 章: バッチファイルとラッパファイル	107
自動化: バッチファイルとラッパファイル	108
DMM オプションファイルへのプログラムからのアクセス	109
ファイルタイプ.....	110

第 10 章: プリンタのマイグレーション	113
DNAPrinter.dll	113
DNAScript	113
Printers.dnajso	114
プリンタのログ メッセージ	114
Windows 7 または Windows 8 上のネットワーク プリンタのマイグレート	115
第 11 章: Web 更新	117
第 12 章: ネットワーク アクセス	119
第 13 章: サードパーティの使用許諾契約書	120

第 1 章: CA DMM テクニカル リファレンス

このマニュアルでは、マイグレーションを自動化してマイグレーションプロセスを簡単に実行できるようにするコマンドラインインターフェースなど、CA DMM の高度な機能の使用方法について説明します。

インストールパス

デフォルトでは、CA DMM は C:¥Program Files¥CA¥Desktop Migration Manager にインストールされます。ドキュメント全体を通じて、このパスをインストールパスと呼びます。

第 2 章: コマンドライン インターフェース

CA DMM コマンドラインインターフェースを使用すると、テンプレート、コマンドライン、バッチ処理、Windows ショートカットを使用して、ほぼすべてのマイグレーション作業を自動的に実行できます。自動マイグレーションをラップアプリケーションに組み込んで、より大きな処理の一部としてマイグレーションを実行することもできます。

コマンドラインを使用した場合は、プロンプトの後にコマンドを入力することで、ファイルの移動、コピー、および印刷などのオペレーティングシステムの機能を実行できます。たとえば、以下のコマンドを実行すると、memo.doc というファイルが C ドライブの Windows フォルダから A ドライブの document フォルダにコピーされます。

```
C:¥WINDOWS> copy memo.doc a:¥document
```

コマンドラインは、さまざまなスイッチを使用してカスタマイズできます。たとえば、CA DMM では、/A は Apply (適用) スイッチになります。

コマンドの実行方法

コマンドは以下の方法で実行できます。

- 外部プログラム、ショートカット、または [スタート] メニューの [ファイル名を指定して実行] から実行する場合は、DesktopDNA.exe を実行するコマンドラインを入力します。
- CA DMM のインストール時に作成された CA DMM のショートカットは、デスクトップにコピーできます。コピーしたショートカットをカスタマイズして名前を変更し、専用のショートカットを作成できます。[リンク先] フィールドに表示されている CA DMM の実行可能ファイルのパスの後にコマンドラインを指定します。
- [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] ウィンドウを開き、[名前] フィールドにコマンドを入力します。
- DNAOptions.xml ファイルまたは代替ファイルを使用します。「[DMM オプションファイル](#) (P. 57)」を参照してください。
- 1つまたは複数のコマンドを記述したバッチファイル (.bat という拡張子のテキストファイル) を使用します。

コマンドラインの構文

コマンドラインを実行するための構文は以下のとおりです。

```
"installation path¥DesktopDNA.exe" /switch [text]
```

コマンドラインの規則

CA DMM のコマンドラインには、以下の一般的な規則が適用されます。各スイッチに適用される他の規則については、「[コマンドラインスイッチ \(P. 16\)](#)」を参照してください。

- デフォルトのディレクトリにインストールした DesktopDNA.exe のパスのように、パスにスペースが含まれる場合は、パスを引用符で囲む必要があります。
- コマンドラインスイッチでは、[Disable コマンド \(P. 41\)](#)を除き、大文字と小文字は区別されません。
- 1つのコマンドラインで DNA ファイルとオプションファイルを同時に指定することはできません。オプションファイルでコマンドラインを使用する場合、ショートカットコマンドラインでは、以下のように DesktopDNA.exe の場所および使用するオプションファイルのパスとファイル名だけを指定することをお勧めします。

```
"installation path¥DesktopDNA.exe" /O "C:¥Process¥DDNAOptions.xml"
```

これ以外のコマンドラインは、オプションファイルのコマンドラインオプションに配置します。

- 完全なスイッチ名を入力しても、スイッチを表す文字を入力しても、結果は同じです（たとえば、/Apply と /A は同じように機能します）。
- スwitchの前のスラッシュ (/) はハイフン (-) で代用できます。
- 各コマンドラインはそれ自体で有効である必要があります。例：
 - オプションファイルのアプリケーションコマンドラインでは、/M（マイグレーション）コマンドラインスイッチに続けて /D（DNA ファイルの作成）コマンドラインスイッチ（/D DNAFile.dna）を指定することはできません。
 - /M コマンドを単独で使用することはできません。
 - 「/D DNAFile.dna」コマンドを単独で使用することはできません。
 - コマンドラインを使用した DMM オプションがテンプレートに含まれる場合は、このテンプレートファイルをオプションファイルで指定することはできません。テンプレートのコマンドラインは、このテンプレートを指定したオプションファイルのコマンドラインと競合します。

- ファイル名パラメータを必要とするコマンドラインスイッチには、ファイル名を含める必要があります。ファイル名は、絶対パス、UNC パス、作業フォルダからの相対パス、またはパスなしで指定できます。

絶対パスの例:

C:\MyDNAFiles\MyDNAFile.dna

UNC パスの例:

\\Server\Volume\MyDNAFiles\MyDNAFile.dna

相対パスの例:

MyDNAFile.dna

- ファイル名でパスを指定しない場合は、以下のデフォルト フォルダにファイルがあると仮定されます。ファイルのデフォルトの保存場所は以下の表のとおりです。

ファイル	フォルダ
DNA ファイル	現在のユーザの「マイ ドキュメント」
テンプレート	現在のユーザの「マイ ドキュメント」
ログ ファイル	DesktopDNA.exe がインストールされている場所。この場所にファイルを作成できない場合は「マイ ドキュメント」
設定ファイル	DesktopDNA.exe がインストールされている場所。この場所にファイルを作成できない場合は「マイ ドキュメント」

- 代替変数はパーセント記号 (%) で囲む必要があります。ファイルパスとファイル名には変数を使用できます。代替変数は CA DMM によって対応する値に置き換えられます。変数では大文字と小文字は区別されず、WINDIR などのシステム環境変数、または以下の例のように特別な CA DMM 変数を使用できます。

```
/D "%WINDIR%\DNA Files\%DNA_MACHINE_NAME%\%DNA_USER_NAME%.dna"
```

ログ ファイル名は、テンプレートで環境変数を含めて設定できるので、各マイグレーションの区別が容易になります。これは、XML オプションファイル、または DMM オプションと共に保存したテンプレートで設定できます。

すべての変数のリストについては、「[変数 \(P. 14\)](#)」を参照してください。

変数

CA DMM では、以下の変数をサポートしています。これらの変数は、コマンドやユーザインターフェースでパスを指定するときに使用できます。

%DNA_MACHINE_NAME%

システムのプロパティのネットワーク ID で定義されているコンピュータ名を表します。

%DNA_PLATFORM_NAME%

現在のコンピュータにインストールされている Windows のバージョンを表します。以下のいずれかの値になります。

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7

%DNA_USER_NAME%

現在ログイン中のユーザ名を表します。

%DNA_COMPANY_NAME%

登録されている会社名を表します。

%DNA_DATE%

「August27_2003」の形式で現在の日付を表します。

%DNA_TIME%

「1655」（hhmm）の形式で現在の時刻を表します。

%DNA_Profile_Name%

マイグレートするユーザのプロファイル名を表します。

%DNA_Profile_Path%

マイグレートするユーザのプロファイルパスを表します。

%DNA_User_Domain%

マイグレートするユーザのドメイン名を表します。

%DNA_Desktop%

マイグレートするユーザのデスクトップへの完全パスを表します。

%DNA_My_Documents%

マイグレートするユーザのマイドキュメントディレクトリへの完全パスを表します。

コマンドラインスイッチ

コマンドラインスイッチとその構文、および使用規則は以下のリストのとおりです。

/A[PPLY] <DNA ファイルのパスとファイル名>

適用する DNA ファイルのパスとファイル名を定義します。パスとファイル名には、環境変数または DMM 変数を使用できます。

必要なスイッチ： なし

一緒に使用できないスイッチ： /C または /D

/C[ONNECT] <コンピュータ名または IP アドレス>

リアルタイムマイグレーションで、デスティネーションシステムをソースシステムに接続します。接続するソースシステムには、名前または IP アドレスを指定します。/C スイッチは /S スイッチと一緒に使用できます。

必要なスイッチ： /T

一緒に使用できないスイッチ： /W、/A、または /D

/D[iskTo]D[isk] [OS Name][(OS Drive)] [Drive Map]

Disk To Disk マイグレーション用のオペレーティングシステムおよびドライブマップ情報を指定します。

OS Name

スレーブディスクにインストールされたオペレーティングシステムを表わします。サポートされている OS Name 定数は WIN7、WINVI、WINXP、WIN2K または WIN2000 です。

OS Drive

スレーブディスクがホストコンピュータに接続する場合、スレーブディスクのマップされたオペレーティングシステムドライブを表わします。このマップされたドライブには、ユーザが OS Name として渡した、マイグレート対象のシステムと同じオペレーティングシステムが含まれます。OS Drive は、サポートされた OS Name 定数と共に使用する必要があります。

Drive Map

ドライブマッピング情報を表わし、「ホストマシンドライブ：ソースマシンドライブ」の形式で定義します（例：P:C）。また、複数のドライブマップを指定するには、カンマ（,）を使用できます（例：P:C,Q:D,R:E）。

必要なスイッチ： /D（または /SE）、/T

一緒に使用できないスイッチ： /A、 /C、 または /W

例

```
DesktopDNA /T C:%MyTemplate.dtf /D C:%MyDNA.dna /DD /M /X
```

```
DesktopDNA /T C:%MyTemplate.dtf /D C:%MyDNA.dna /DD WINXP /M /X
```

```
DesktopDNA /T C:%MyTemplate.dtf /D C:%MyDNA.dna /DD WINXP(P) /M /X
```

```
DesktopDNA /T C:%MyTemplate.dtf /D C:%MyDNA.dna /DD WINXP(P) P:C,Q:D,R:E /M /X
```

```
DesktopDNA /T C:%MyTemplate.dtf /D C:%MyDNA.dna /DD WINXP P:C,Q:D,R:E /M /X
```

/D[NA] <DNA ファイルのパスとファイル名>

作成する DNA ファイルのパスとファイル名を定義します。パスとファイル名には、環境変数または DMM 変数を使用できます。

オプションのスイッチ： なし

必要なスイッチ： /T

オプションのスイッチ： /C、 /R、 または /W

/Disable <UI エlement名>

/Disable コマンドは複数回使用できます。「[コマンドラインによるウィザードのカスタマイズ \(P. 41\)](#)」を参照してください。

必要なスイッチ： なし

一緒に使用できないスイッチ： なし

/En[crypt]

現在の遅延マイグレーション用の DNA ファイル（または自己解凍ファイル）に保存されたデータ、または現在のリアルタイムマイグレーション中にネットワーク経由で転送されたデータを暗号化します。

注： /s と共に指定された [Password] は、遅延マイグレーション中に DNA ファイル（または、自己解凍ファイル）を暗号化するために使用されます。

[Password] はリアルタイムマイグレーションに必須ではありません。FIPS 準拠の暗号化では、暗号化キーのパスを指定する場合、/FK と共に /FO スイッチを使用します。

必要なスイッチ： /D、 /W または /C

同時に使用できないスイッチ： /A

注：現在のマイグレーションでは、オプションファイルに設定されたデータ保護レベルと、指定されたコマンドライン引き数 (/s および /en) を結合して取得します。

/I[gnore]F[ips]M[ode]

Client Automation の FIPS モードを無視します。CA DMM を FIPS 推奨モードで動作するようにインストールしている場合、Client Automation の FIPS モードが CA DMM の FIPS モードを決定します。たとえば、Client Automation の FIPS モードが「FIPS のみ」の場合、CA DMM インストール中に「FIPS 推奨」を選択した場合でも、CA DMM は「FIPS のみ」のモードで動作します。Client Automation の FIPS モードを無視し、CA DMM を FIPS 推奨モードで動作させるには、このスイッチを使用します。CA DMM を「FIPS のみ」のモードで動作するようにインストールしている場合、常に「FIPS のみ」のモードで動作します。

同時に使用できないスイッチ： /FO

/F[ips]O[nly]

FIPS 準拠の暗号化を使用して、データをすべて暗号化します。

必要なスイッチ： /EN

オプションスイッチ： /D、/W、/C

同時に使用できないスイッチ： /S

/F[ips]K[ey] <key path>

FIPS 準拠の暗号化に使用した暗号化キーを格納する場所のパスを指定します。

必要なスイッチ： /FO

同時に使用できないスイッチ： /S

/H[ELP] または /?

コマンドラインスイッチのヘルプテキストを表示します。

オプションのスイッチ： なし

必要なスイッチ： なし

一緒に使用できないスイッチ： なし

/L[AUNCH] <UI エlement名>

CA DMM の起動時に表示する初期画面ページを定義します。「[コマンドラインによるウィザードのカスタマイズ \(P. 41\)](#)」を参照してください。

必要なスイッチ： なし

一緒に使用できないスイッチ： なし

/M[IGRATE]

マイグレーションを自動的に開始します。

必要なスイッチ： /C および /T、または /A、または /D および /T

一緒に使用できないスイッチ： Q

/NoUser <ソース> [<修飾子> <値>]*

ユーザをマイグレーションから除外します。以下の修飾子を使用します。

Before <日付>

After <日付>

Orphan <true | false>

(<日付> はローカライズされた日付の短縮形です。)

注: User コマンドライン引数は、他のすべての形式のユーザ選択より優先されます。この引数は同じコマンドラインで複数回使用できます。

必要なスイッチ： /C、/A、または /D /NoUser は、1 つ以上の /User 引数と共に指定する必要があります。

一緒に使用できないスイッチ： なし

/O[PTIONS] <使用する DMM オプション ファイルのパスとファイル名>

マイグレーションに使用する DMM オプション ファイルのパスとファイル名です。パスとファイル名には、環境変数または DMM 変数を使用できます。

必要なスイッチ： なし

一緒に使用できないスイッチ： なし

/Q[UIET]

CA DMM を Quiet モード（ウィンドウ非表示）で実行し、/M パラメータのようにマイグレーションを自動的に開始します。

必要なスイッチ： /X、/R、または /UX

一緒に使用できないスイッチ： /M または /W

/R[EBOOT]

マイグレーションの終了時にシステムを再起動します。

必要なスイッチ： /M または /Q

一緒に使用できないスイッチ： /D、/SE、/X、または /UX

/R[EVISION]D[ATE] "<ローカライズされた短縮形の日付> [ローカライズされた時刻(必要なら AM/PM を含む)]"

DNA ファイルの特定のリビジョンを復元します。

必要なスイッチ： /M

一緒に使用できないスイッチ： /C、/D、/SE、/W

/S <パスワード> または /PASSWORD <パスワード>

DNA または自己解凍ファイルのパスワード保護を定義します。パスワードには、5 ～ 20 文字までの文字数を使用する必要があります。

注: /S を使用して DNA ファイルのバックアップを作成する場合、DMM Always Current Scheduler ウィザードの [タスクの定義] ページで [パスワードの設定] をクリックすると、DNA ファイルをパスワードで保護するように指定できます。パスワード保護を指定すると、Windows スケジューラがタスクを実行するときにパスワードが暗号化され、データのセキュリティが保たれます。

必要なスイッチ： /D、/A、/C または /W

一緒に使用できないスイッチ： /C または /W でパスワードを指定する場合は使用できません。

/SE <作成する自己解凍 DNA ファイルのパスとファイル名>

作成する自己解凍 DNA ファイルのパスとファイル名を定義します。パスとファイル名には、環境変数または DMM 変数を使用できます。

必要なスイッチ： /T

一緒に使用できないスイッチ： /A、/C、/R、または /W

/T[EMPLATE] <使用する DMM テンプレート ファイルのパスとファイル名>

マイグレーションに使用するテンプレート ファイルのパスとファイル名を定義します。パスとファイル名には、環境変数または DMM 変数を使用できます。

注: /T 引数は複数回使用できます。矛盾が発生した場合、コマンドラインの最後のテンプレートが優先的に使用されます。

必要なスイッチ: /C、/D、/A、または /SE

一緒に使用できないスイッチ: /W

/USER <ソース>[:<デスティネーション>] [<修飾子> <値>]*

マイグレートするユーザを選択またはリダイレクトするか、その両方を行います。以下の修飾子を使用します。

Before<日付>

After<日付>

Orphan <true | false>

(<日付> はローカライズされた日付の短縮形です)。

ドメインまたは Active Directory、およびユーザ名には、ワイルドカード、環境変数、および DMM 変数を使用できます。User コマンドラインを指定した場合は、DMM Template Editor または DMM ユーザーインターフェースで指定したユーザの選択より優先されます。/USER は同じコマンドラインで複数回使用できます。詳細については、「[ユーザ コマンドラインの詳細 \(P. 26\)](#)」を参照してください。

<ソース>

指定の一部にワイルドカードを使用できます。たとえば、"x*y?¥username) のように指定できます。

<デスティネーション>

ワイルドカードのみ使用できます。たとえば、"domain¥*)" のように指定できます。

必要なスイッチ: /A、/C、または /D

一緒に使用できないスイッチ: <デスティネーション> は、/D と一緒に使用できません。

/UNDO <使用するアンドウ ファイルのパスとファイル名>

使用するアンドウ ファイルのパスとファイル名を定義します。パスとファイル名には、環境変数または DMM 変数を使用できます。

必要なスイッチ: なし

一緒に使用できないスイッチ：なし

/UX

エラーが発生した場合も CA DMM が無条件で終了するように定義します。

必要なスイッチ：/A、/M または /Q

一緒に使用できないスイッチ：/X、/R、/W

/W[AIT]

リアルタイムマイグレーションのソースシステムとして自動的に起動し、デスティネーションシステムが接続するまで待機します。/S を使用した場合、システムに接続するためのパスワードを指定する必要があります（パスワードはオプションです）。

必要なスイッチ：なし

一緒に使用できないスイッチ：/M、/D、/A、/V、/C、/UX、または /Q

/X または /EXIT

エラーが発生しない限り、マイグレーションの終了時に CA DMM を終了します。

必要なスイッチ：/M または /Q

一緒に使用できないスイッチ：/R、または /UX

コマンドラインの例

以下のコマンドラインを実行すると、CA DMM がソース コンピュータとして起動し、宛先コンピュータが接続するまで待機します（接続用のパスワードは指定していないか、不要です）。

```
DesktopDNA.exe /W
```

以下のコマンドラインを実行すると、CA DMM が宛先コンピュータとして起動し、指定した IP アドレスのソース コンピュータに接続します。

```
DesktopDNA.exe /C 192.168.1.1
```

以下のコマンドラインを実行すると、テンプレート `ca.dtf` を使用して、ユーザのログイン名が付いた DNA ファイルが、コンピュータ名が付いたディレクトリ自動的に作成されます。

```
DesktopDNA.exe /D F:¥%DNA_Machine_Name%¥%DNA_User_Name%.dna /T ca.dtf /M /X
```

以下のコマンドラインを実行すると、`ca.dtf` というテンプレートを使用して、作業ディレクトリにある `ca.dna` という名前の DNA ファイルを自動的に適用します。

```
DesktopDNA.exe /A ca.dna /T c:¥templates¥ca.dtf /M /X
```

以下のコマンドラインを実行すると、CA DMM が起動し、ディスクからディスクのマイグレーションが実行されます。また、指定したパスに DNA または SE ファイルが作成されます。

```
DesktopDNA.exe /T C:¥MyTemplate.dtf /D (or /SE) C:¥MyDNA.dna /DD WINXP(P) P:C,Q:D,R:E /M /X
```

障害復旧の例

CA DMM を使用して、障害発生時のダウンタイムを短縮できます。以下の障害復旧の例では、バックアップ用のサーバが 1 台ネットワークに存在することを前提としています。

1. 各従業員は、システムとアプリケーションの設定、および選択済みのファイルとフォルダを含むテンプレートを作成する必要があります。
2. 各従業員のデスクトップに **Backup** という名前のショートカットを作成します。

以下に例を示します。

```
"serverpath%DesktopDNA.exe" /T "serverpath/%DNA_User_Name%.dtf" /D  
"serverpath%DNA_User_Name%.dna" /V %DNA_User_Name%.log /M /X
```

このショートカットは、選択された設定とデータを、従業員が指定サーバに作成したユーザ固有のテンプレート（serverpath%DNA_User_Name%.dtf）を使用して、同じサーバ（serverpath）上のユーザ名の付いた DNA ファイル（%DNA_User_Name%.dna）に保存します。

従業員には、業務終了時にショートカットをダブルクリックして、設定とデータを保存するように指示しておく必要があります。ユーザに代わって、この操作を DMM Scheduler に実行させることもできます。

3. コンピュータまたはネットワークの障害発生後、影響を受けたコンピュータのハードディスク ドライブを修理、消去して、再フォーマットします。
4. オペレーティング システムとネットワーク環境を復旧します。
5. ソフトウェアをコンピュータに展開します。
6. ショートカットを作成し、復旧した各コンピュータにコピーします。

例：

```
"serverpath%DesktopDNA.exe" /A "serverpath%DNA_User_Name%.dna" /M /R
```

このショートカットは、以前に保存された DNA ファイルを適用し、従業員の設定とデータを復旧して、完了後にコンピュータを再起動します。

コマンドラインの長さの超過

標準のコマンドラインの長さは 255 文字です。この制限を回避するために、DMM オプションファイルにコマンドラインを含めることができます。コマンドラインは、プログラムの起動に使用するコマンドに続けて記述します。

ただし、コマンドラインとオプションファイルのエントリがそれぞれ有効であることを確認する必要があります。つまり、各スイッチに必要なすべてのコマンドラインスイッチを適切な場所に配置する必要があります。

たとえば、/D スイッチと /T スイッチを、プログラム実行用のコマンドラインとオプションファイルのコマンドラインオプションに分割して配置することはできません。2 つともコマンドライン、またはオプションファイルにまとめて配置する必要があります。

ユーザコマンドラインの詳細

CA DMM では、DMM Template Editor や CA DMM ユーザ インターフェイス以外にも、マイグレートするユーザを選択できるユーザ コマンドラインをサポートしています。

ユーザ コマンドラインを実行するには管理者としてログインする必要があります。

注: /S (パスワード) は、ユーザ コマンドラインの引数と共に使用することはできません。

ユーザ コマンドラインを使用した場合、競合を避けるため、ユーザ インターフェイスまたは DMM テンプレートでのユーザ選択は無効になります。

注: ユーザ コマンドラインを実行したうえで、ユーザ インターフェイスでユーザを選択したり、ユーザ選択を含むテンプレートをロードしたりした場合、インターフェイスやテンプレートでのユーザ選択は無視されます。ユーザ コマンドライン引数が常に優先されます。

ローカル ユーザを選択するための構文は以下のとおりです。

```
/user <ユーザ名>
```

ドメイン ユーザを選択するための構文は以下のとおりです。

```
/user <ドメイン名または Active Directory コンテナ>¥<ユーザ名>
```

ユーザ コマンドライン スイッチの最後の要素は常にユーザ名であると見なされます。

ユーザ コマンドラインには[ワイルドカード](#) (P. 29)と変数を使用できます。

セキュリティマイグレーション

DMM オプション ファイルで [[グループ メンバシップ \(P. 95\)](#)] をマイグレートする] オプションを **True** に設定すると、該当するグループ メンバシップがユーザと共にマイグレートされます。[グループ メンバシップをマイグレートする] オプションは、デフォルトで **True** に設定されています。

[NTFS セキュリティ情報の格納と適用 \(P. 95\)](#) のオプションが DMM オプション ファイルで **True** に設定されている場合、該当するファイルとフォルダセキュリティがユーザと共にマイグレートされます。NTFS セキュリティ情報の格納と適用のオプションは、デフォルトで **False** に設定されています。

グループと NTFS セキュリティのマイグレーションは、ユーザが DMM ユーザ インターフェース、テンプレート ファイル、ユーザ コマンド ラインのどれを使用して選択されたかに関わらず、マイグレーション用に選択されたユーザと関連付けられます。

ユーザ コマンド ラインの機能

ユーザ コマンド ラインでは以下の機能がサポートされています。

- [ワイルドカード \(P. 29\)](#)
- [ローカル ユーザ \(P. 31\)](#)
- [特殊ユーザ \(P. 32\)](#)
- [ドメインまたは Active Directory ユーザ \(P. 32\)](#)
- [孤立ユーザ \(P. 35\)](#)
- [ユーザの除外 \(P. 36\)](#)
- [日付範囲 \(P. 37\)](#)
- [ユーザのリダイレクト \(P. 38\)](#)

すべてのユーザ（ローカル、ドメイン、Active Directory、孤立）を含めるまたは除外するには以下の構文を使用します。

ユーザの種類	追加フィルタ	除外フィルタ	説明と例
ローカル	/user ?*	/nouser ?*	ローカル アカウントを除くすべてのユーザをマイグレートするには、以下の構文を使用します。 /user* /nouser ?*

ユーザの種類	追加フィルタ	除外フィルタ	説明と例
ドメイン	<code>/user ?*¥*</code>	<code>/nouser ?*¥*</code>	<p>この例の「含める場合」の構文では、孤立ユーザを除くすべてのユーザがマイグレートされます。</p> <p>この例の「除外する場合」の構文では、孤立ユーザを除くすべてのユーザが除外されます。</p> <p>孤立ユーザを含めるまたは除外する方法の詳細については、孤立ユーザの行を参照してください。</p>
Active Directory	<code>/user ?*¥*¥*</code> 注: 「*」は、組織単位または任意の深度レベルのコンテナを定義します。	<code>/nouser ?*¥*¥*</code>	<p>孤立ユーザを除くすべての Active Directory ユーザを含めるには、以下の構文を使用します。</p> <pre>/user ?*¥*¥*</pre> <p>前者の例では、孤立ユーザおよびユーザ名が組織単位の名前と同じ名前を持つ Active Directory ユーザを除くすべての Active Directory ユーザがマイグレートされます。</p> <p>Active Directory に含まれるすべての孤立ユーザを除外するには、以下の構文を使用します。</p> <pre>/user * /nouser ?*¥*¥* /user ?*¥*¥* orphan false</pre> <p>Active Directory ユーザを除外し、その他すべてのユーザを含めるには、以下の構文を使用します。</p> <pre>/user * /nouser ?*¥*¥*</pre> <p>孤立した Active Directory アカウントは、ドメインアカウントと見かけが同じになるため、選択されたままになります。</p>
すべてのユーザ	<code>/user *</code>	<code>/nouser *</code>	<p>すべてのユーザ（孤立ユーザ、特殊ユーザ（注を参照）、ドメインユーザ、Active Directory ユーザ）をシステムに含めるには、以下の構文を使用します。</p> <pre>/user *</pre>

ユーザの種類	追加フィルタ	除外フィルタ	説明と例
孤立	ローカル： /user ?* orphan true ドメイン： /user ?*¥* orphan true Active Directory： /user ?*¥*¥* orphan true	ローカル： /user ?* orphan false ドメイン： /user ?*¥* orphan false Active Directory： /user ?*¥*¥* orphan false	これらの例では、すべての孤立ユーザが除外されます。

注: 特殊ユーザとは、管理者やデフォルトユーザのように、オペレーティングシステムによって作成されたプロファイルを持つユーザです。

ワイルドカード

ワイルドカードを使用すると、ドメインまたは Active Directory コンテナと、マイグレートするユーザ名を識別できます。

デスティネーションワイルドカードとソースワイルドカードには違いがあります。ソースワイルドカードの場合、名前にワイルドカードを含めることができますが（「!*n?¥m*am?r」など）、デスティネーションワイルドカードでは、名前全体を置き換えることしかできません（「x¥y:domain1¥*」、「x¥y:*¥John」など）。

ワイルドカードの使用例は以下のとおりです。

*(アスタリスク)

アスタリスクの位置の任意の 0 文字以上の文字列に一致します。以下に使用例を示します。

```
/user *
```

ローカル、Active Directory、Windows ドメインを含むシステム上のすべてのユーザを選択します。これは「/user */*」と同じになります。

`/user la*`

システム上の「La」に一致するすべてのローカルユーザまたはローカル特殊ユーザを選択します。Laura、Lauren、Laural、Lawrence、Laurie などに一致します。

`/user *¥*`

ローカル、Active Directory、Windows ドメインを含むシステム上のすべてのユーザを選択します。これは「`/user */*`」と同じになります。

`/user Domain1¥*`

Domain1 に属するシステム上のすべてのユーザを選択します。

`/user ?*¥Michael`

システム上の任意の Windows ドメインに属するユーザ Michael を選択します。

`/user ?*¥%DNA_User_Name`

システム上の任意の Windows ドメインにログインしているユーザを選択します。

`/user ?*¥*¥*`

孤立ユーザを除くすべての Active Directory ユーザを選択します。「*」は、組織単位または任意の深度レベルのコンテナを定義します。

? (疑問符)

疑問符の位置の任意の 1 文字に一致します。アスタリスクと併用できません。疑問符はソース マシンからユーザを指定する場合のみ使用します。デスティネーションでユーザのリダイレクトを指定するときに疑問符を使用することはできません。

`/user ?*¥M?ch*`

指定したワイルドカードに一致するすべてのユーザを選択します。任意の Windows ドメインに属する Michael と Michelle が選択されます。

`user Domain1¥M?ch*`

Domain1 に属し、定義したワイルドカードに一致するすべてのユーザを選択します。Domain1 に属する Michael と Michelle の両方が選択されます。

ローカル ユーザ

ユーザ コマンドラインでは、(ドメインを指定せずに)ユーザ名だけを入力して、ローカル ユーザを指定する必要があります。パラメータが 1 つだけのすべてのユーザ コマンドラインは、ソースおよびデスティネーションの両方でローカル ユーザまたは特殊ユーザと見なされます。

ローカル ユーザの指定には、ワイルドカードと変数を使用できます。

ローカル ユーザをマイグレートするための構文は以下のとおりです。

```
/user <ユーザ名>
```

例 1: Michael をマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、ローカル ユーザ **Michael** がマイグレートされます。

```
/user Michael
```

例 2: 名前が M で始まるすべてのローカル ユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、名前が **M** で始まるすべてのローカル ユーザがマイグレートされます。

```
/user M*
```

例 3: 名前が M で始まり ch を含むすべてのローカル ユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、名前が **M** で始まり **ch** を含むすべてのローカル ユーザ (Michael、Michelle など) がマイグレートされます。

```
/user M?ch*
```

例 4: 現在ログオンしているユーザをマイグレートする

以下のコマンドでは、変数を使用して、現在ログオンしているユーザをマイグレートします。

```
/user %user_name%
```

特殊ユーザ

特殊ユーザとは、管理者やデフォルト ユーザなどオペレーティング システムによって作成されるユーザ プロファイルです。

ローカル ユーザまたは特殊ユーザをユーザ コマンドラインで指定する場合は、ユーザ名のみを指定します。単一の引数のみを含むユーザ コマンドラインはすべて、ローカル ユーザまたは特殊ユーザと見なされます。

ドメインに属する特殊ユーザを指定するには、ユーザ コマンドラインにユーザ名だけでなく、ドメインまたは **Active Directory** も指定します。

ユーザの指定には、ワイルドカードと変数を使用できます。

[複数のユーザ]

`/user` コマンドを複数回入力することで、複数のユーザを指定できます。 `/user` コマンドで各ユーザを入力すると、それらのユーザをデスティネーション マシンに簡単にリダイレクトできます。

複数のユーザをマイグレートするための構文は以下のとおりです。

```
/user <ドメイン名>¥<ユーザ名> /user <ドメイン名>¥<ユーザ名>
```

ドメイン ユーザ

コマンドラインでユーザ名の前にドメイン名を入力することで、ドメイン ユーザを指定できます。ユーザおよびドメインの指定には、ワイルドカードと変数を使用できます。

ワイルドカードを使用することはできますが、ユーザ コマンドラインの先頭にアスタリスクを入力すると、**Windows** ドメイン ユーザのステータスとは無関係にすべてのユーザ (ワイルドカード ユーザ) が選択されるので注意が必要です。マイグレーションのローカル ユーザまたは特殊ユーザではなく、**Windows** ドメイン ユーザのみを選択するには、以下の例のようにアスタリスク (*) の前に疑問符 (?) を入力します。

ドメイン ユーザをマイグレートするための構文は以下のとおりです。

```
/user <ドメイン名>%<ユーザ名>
```

例 1: Domain 1 に属する Michael というユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、Domain1 のユーザ Michael がマイグレートされます。

```
/user Domain1%Michael
```

例 2: 名前が M で始まるすべてのドメイン ユーザをマイグレートしない

以下のコマンドを実行すると、名前が M で始まるすべてのドメイン ユーザがマイグレートされます。

```
/user ?*%M*
```

例 3: 名前が M で始まり ch を含むすべてのドメイン ユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、名前が M で始まり ch を含むすべての Windows ドメインユーザ (Michael、Michelle など) がマイグレートされます。

```
/user ?*%M?ch*
```

例 4: マシン上のすべての Domain1 ユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、マシン上のすべての Domain1 ユーザがマイグレートされます。

```
/user Domain1%*
```

例 5: 現在ログオンしているユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、現在ログオンしているすべての Windows ドメインユーザがマイグレートされます。

```
/user ?*%User_Name%
```

例 6: 現在ログオンしているユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、現在ログオンしているすべての Domain1 ユーザがマイグレートされます。

```
/user Domain1%User_Name%
```

Active Directory ユーザ

コマンドラインでユーザ名の前に **Active Directory** 名を入力することで、**Active Directory** ユーザを指定することができます。

ユーザおよび **Active Directory** コンテナの指定には、ワイルドカードと変数を使用できます。

ワイルドカードを使用することはできますが、ユーザ コマンドラインの先頭にアスタリスクを入力すると、**Active Directory** のステータスとは無関係にすべてのユーザ（ワイルドカードユーザ）が選択されるので注意が必要です。マイグレーションのローカルユーザまたは特別なユーザではなく、**Active Directory** ユーザのみを選択するには、以下の例のようにアスタリスク（*）の前に疑問符（?）を入力します。

ドメイン ユーザをマイグレートするための構文は以下のとおりです。

```
/user <active directory>[(¥<コンテナ>)|(¥<組織単位>)+]¥<ユーザ名>
```

コンテナおよび組織単位のルール

- ユーザはコンテナ内または組織単位内に含めることができます。
- 組織単位はコンテナ内に含めることはできません。
- 組織単位は別の組織単位内に含めることができます。

例 1: コンテナ内の **Active Directory** ユーザのマイグレート

以下のコマンドを実行すると、以下に属するユーザ **Michael Smith** がマイグレートされます。

Active Directory : PM.ca.com

コンテナ : Users

ユーザ : Michael.Smith

```
/user PM.ca.com¥Users¥Michael.Smith
```

例 2: 2つの組織単位に含まれるユーザのマイグレート

以下の例では、以下に属するユーザ Michael Smith がマイグレートされます。

Active Directory : engineering.ca.com

組織単位 : Enterprise

組織単位 : Engineer

```
/user engineering.ca.com¥Enterprise¥Engineer¥Michael.Smith
```

例 3: 2つの組織単位に含まれるすべての Active Directory ユーザのマイグレート

以下の例では、以下に属するシステム上のすべてのユーザがマイグレートされます。

Active Directory : すべての Active Directory

組織単位 : すべての組織単位

組織単位 : すべての組織単位

```
/user ?*¥*¥*
```

孤立ユーザ

/user コマンドラインで、「orphan true」または「orphan false」と入力することで、孤立ユーザを指定できます。

孤立ユーザをマイグレートするための構文は以下のとおりです。

```
/user <ユーザ名> orphan true
```

```
/user <ユーザ名> orphan false
```

例 1: 孤立していないローカル ユーザをマイグレートする

以下の例では、孤立アカウントではないユーザ Michael がマイグレートされます。

```
/user Michael orphan false
```

例 2: 名前が M で始まるすべての孤立ドメイン ユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、名前が M で始まるすべての孤立ドメイン ユーザがマイグレートされます。

```
/user ?*M* orphan true
```

例 3: 名前が M で始まり ch を含む、孤立していないすべてのドメイン ユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、名前が M で始まり ch を含む、孤立していないすべてのドメイン ユーザがマイグレートされます。

```
/user ?*M?ch* orphan false
```

ユーザの除外

コマンドラインでユーザをマイグレーションから除外できます。ユーザ名を引数として、`/user` パラメータと共に使用します。

ユーザをマイグレーションから除外する構文は以下のとおりです。

```
/nouser *%<ユーザ名>
```

```
/user <ドメイン名>%<ユーザ名> /user <ドメイン名>%<ユーザ名>
```

例 1: ドメイン ユーザをマイグレーションから除外する

以下のコマンドを実行すると、ドメイン D5 の Michael というユーザがマイグレーションから除外されます。

```
/nouser D5%Michael
```

例 2: D5 を除くすべてのドメインのユーザを除外する

以下のコマンドを実行すると、すべてのドメインの Michael という名前のユーザが除外されます（ドメイン D5 の Michael を除く）。

```
/user ?*%Michael /nouser D5%Michael
```

例 3: 名前が M で始まるすべてのドメイン ユーザをマイグレートしない

以下のコマンドを実行すると、名前が M で始まるすべてのドメイン ユーザがマイグレートされません。

```
/nouser ?*M*
```

日付範囲

「before <日付>」および「after <日付>」を使用して、ユーザのマイグレーションを指定できます。このコマンドラインスイッチを使用すると、指定した日付以降または以前に変更されたユーザプロファイルをマイグレートできます。before 引数または after 引数を単独で使用したり、組み合わせて使用することで、/user または /nouser 引数と共に日付の範囲を指定します。

注: 日付はそれぞれのロケールの短縮形で指定します。英語環境でのデフォルトは m/d/yyyy (12/5/2002 または 1/14/2003) になります。Windows 2000 では、日付の設定はコントロールパネルにある [地域のオプション] で設定します。時刻は指定日の深夜 0 時になります。

マイグレーションの日付範囲を指定する構文は以下のとおりです。

```
/user <ドメイン名>*<ユーザ名> after 12/5/2003
```

```
/user <ドメイン名>*<ユーザ名> before 1/15/2004
```

```
/user <ドメイン名>*<ユーザ名> after 12/5/2003 and before 1/15/2004
```

例 1: 2003 年 12 月 5 日以降に作成されたすべてのドメインのユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、2003 年 12 月 5 日以降にプロファイルが作成されたすべてのドメインの Michael というユーザがマイグレートされます。

```
/user ?*Michael after 12/5/2003
```

例 2: 2004 年 1 月 15 日以前に作成されたすべてのドメインのユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、2004 年 1 月 15 日以前にプロファイルが作成されたすべてのドメインの Michael というユーザがマイグレートされます。

```
/user ?*Michael before 1/15/2004
```

例 3: 指定した日付範囲ですべてのユーザをマイグレートする

以下のコマンドを実行すると、2003 年 12 月 2 日 ~ 2004 年 1 月 15 日の間にユーザプロファイルにアクセスされた、すべてのドメインのユーザがマイグレートされます。

```
/user ?*/* after 12/5/2003 before 1/15/2004
```

ユーザのリダイレクト

コマンドラインを使用して、ユーザをリダイレクトする場合、**リダイレクト引数を使用できるのは、同時に DNA ファイルを適用する場合のみです。** DNA ファイルを作成するときにリダイレクト引数をコマンドラインに入力すると、コマンドラインが無効であることを示すメッセージが表示されます (/A と共にのみ使用し、/D と共に使用しないでください)。

ユーザ コマンドラインを使用した場合、競合を避けるため、CA DMM ユーザ インターフェースまたは DMM テンプレートでのユーザ選択は無効になります。

注: ユーザ コマンドラインを実行した上で、ユーザ インターフェースでユーザを選択したり、ユーザ選択を含むテンプレートをロードしたりした場合、インターフェースやテンプレートでのユーザ選択は無視されます。ユーザ コマンドライン引数が常に優先されます。この場合、メッセージがイベント ログとデバッグ ログに書き込まれます。

ソースまたはデスティネーション ユーザ コマンドラインの最後の要素は常にユーザ名であると見なされます。

以下の構文を実行すると、ユーザがあるドメインから別のドメインにマイグレートされます。

```
/user <ドメイン名>¥<ユーザ名>:<ドメイン名>¥<ユーザ名>
```

以下の構文を実行すると、ユーザがあるドメインから Active Directory にマイグレートされます。

```
/user <ドメイン名>¥ユーザ名>:<active directory>.<コンテナ>.<組織単位>¥<ユーザ名>
```

以下の構文を実行すると、ユーザがある Active Directory から別の Active Directory にマイグレートされます。

```
/user <active directory>.<コンテナ>.<組織単位>¥<ユーザ名>:  
<active directory>.<コンテナ>.<組織単位>¥<ユーザ名>
```

例 1: ユーザをドメイン間でマイグレートする

以下の例では、Domain1 のユーザ Michael が Domain5 のユーザ Michael にマイグレートされます。

```
/user Domain1¥Michael:Domain5¥Michael
```

例 2: ユーザを Active Directory 間でマイグレートし、ユーザ名を変更する

以下のコマンドを実行すると、Domain1 のユーザ Jane が Active Directory Admin.ca.com の User コンテナに、ユーザ名 Jane.Married としてマイグレートされます。

```
/user Domain1¥Jane:Admin.ca.com¥Users¥Jane.Married
```

例 3: ユーザを Active Directory コンテナ間でマイグレートし、ユーザ名を変更する

以下のコマンドを実行すると、Active Directory PM.ca.com の User コンテナのユーザ Jane.Maiden が Active Directory PM.ca.com の Admin コンテナのユーザ名 Jane.Married としてマイグレートされます。

```
/user PM.ca.com¥Users¥Jane.Maiden:PM.ca.com¥Admin¥Jane.Married
```

例 4: ドメイン ユーザをローカル ユーザにリダイレクトする

以下のコマンドを実行すると、ドメイン ユーザがローカル ユーザにリダイレクトされます。マシン名の環境変数を使用する必要があります。

```
/user ***:%DNA_MACHINE_NAME%¥*
```


第 3 章: コマンドラインによるウィザードのカスタマイズ

コマンドラインで対象ユーザに表示するシートとページを指定することで、CA DMM ウィザードをカスタマイズできます。カスタマイズするには、DMM オプションファイル、ショートカット、またはバッチファイルでコマンドラインを作成します。ウィザードをカスタマイズすると、マイグレーションのセキュリティが向上し、エンドユーザによるマイグレーション処理が容易になります。ユーザインターフェースエレメントを無効にすることで、セキュリティが高く、エンドユーザにとって分かりやすいマイグレーション処理を作成できます。

ユーザ インターフェース エレメントの無効化

`/DISABLE` コマンドライン オプションを使用すると、ユーザインターフェースの一部を無効にすることができます。1つのコマンドラインに複数の `/DISABLE` オプションを指定できます。マイグレーションを実行するために入力が必要なページは無効にしないでください。たとえば、マイグレーションを適用するときユーザが DNA ファイルを選択する必要がある場合は、`[DNA ファイルを開く]` ページを無効にできません。

シートを無効にすると、シートのすべてのページが無効になり、タブが削除されます。シート内のすべてのページを無効にすると、シート自体も無効になります。

開始ページとして使用できるユーザインターフェースエレメントや無効にできるエレメントについては、「[ファイルタイプ \(P. 110\)](#)」を参照してください。末尾に「Sheet」が付いているエレメントは、CA DMM ユーザインターフェースのタブを表します。末尾に「Page」が付いているエレメントは、シート内のページを表します。末尾に「WelcomePage」が付いているページは、初期画面を無効にすると表示されません。

注: ユーザインターフェースエレメントを `/disable` コマンドで指定する場合は、大文字と小文字を正しく入力する必要があります。メニューアイテムを無効にしても、ユーザインターフェースの関連するページは無効になりません。

例:

以下のコマンドラインは次のアイテムを無効にします。

- [開始] シート
- [システム設定の選択] ページ
- [アプリケーションと設定の選択] ページ
- [検索フィルタの選択] ダイアログ ボックス
- [デスティネーション] シート
- [ユーザの選択] ページ

```
/disable StartSheet /disable SystemSettingsPage /disable ApplicationsSettingsPage  
/disable SearchFilters /disable DestinationSheet /disable UserOptionsPage
```

CA DMM の開始ページの指定

/LAUNCH コマンドライン オプションを使用すると、CA DMM を起動したときに最初に表示されるページを指定できます。マイグレーションを実行するために入力が必要なページをスキップしないでください。

[開始]タブの無効化コマンド

[開始] タブのページとその機能を無効にするコマンドは以下の表のとおりです。

ページ	コマンド	説明
[開始] タブ	StartSheet	ユーザ インターフェースから [開始] タブとそのすべてのページを削除します。
CA DMM へようこそ	StartSheetWelcomePage	[開始] タブの初期画面。
DMM タスクの選択	DNAServicePage	DNA ファイルを作成または開くためのページ、またはリアルタイム マイグレーションのソースまたはデスティネーションを選択するページを削除します。
DMM タスクの選択- [開く] ボタン	DNAServicePage::Open	[開く] ボタンを無効にします。

ページ	コマンド	説明
DMM タスクの選択- [作成] ボタン	DNAServicePage::Create	[作成] ボタンを無効にします。
DMM タスクの選択- [ソース] ボタン	DNAServicePage::Source	[ソース] ボタンを無効にします。
DMM タスクの選択- [デスティネーション] ボタン	DNAServicePage::Destination	[デスティネーション] ボタンを無効にします。
[テンプレート ファイルを開く]	TemplateFileListPage	テンプレートのリストから DMM テンプレートを選択するページを削除します。
DNA ファイルを開く	DNAFileListPage	DNA ファイルのリストから DNA ファイルを選択して開くページを削除します。
DNA ファイル オプション	EditBoxFilePage	DNA ファイルを開いたときに、DNA ファイルを編集するか、直接 [デスティネーション] タブに移動するかを選択するページを無効にします。
DNA ファイル オプション- [デスティネーション] ボタン	EditBoxFilePage::Destination	[デスティネーション] ボタンを無効にします。
DNA ファイル オプション- [編集] ボタン	EditBoxFilePage::Edit	[編集] ボタンを無効にします。
パスワードの入力	ServerPasswordPage	リアルタイム マイグレーション中にソース システムを不正アクセスから保護するためのパスワードを設定するページを削除します。また、リアルタイム マイグレーション中にデータ交換を暗号化します。
標準ネットワーク	ServerConnectionPage	リアルタイム マイグレーション中にソース マシンの接続ステータスを表示するページを削除します。

ページ	コマンド	説明
標準ネットワークでソースシステムに接続	ClientConnectionPage	リアルタイムマイグレーション中に、見つかったPCへの接続、他のPCの検索、IPアドレスの入力、宛先マシンでの暗号化モードの有効化などを行うページを削除します。
ソースシステムの検索	MachineBrowserPage	リアルタイムマイグレーション中に、見つかったソースシステムのリストからの選択、デスティネーションマシンのIPアドレスの入力などを行うページを削除します。

[設定]タブの無効化コマンド

[設定] タブのページとその機能を無効にするコマンドは以下の表のとおりです。

ページ	コマンド	説明
[設定] タブ	SettingsSheet	ユーザインターフェースから [設定] タブとそのすべてのページを削除します。
[設定の選択]	SettingsSheetWelcomePage	[設定] タブの情報/初期画面ページを削除します。
[マイグレーションするユーザの選択] (現在のユーザまたは複数のユーザ)	UserOptionsPage	マイグレートする現在のユーザまたは複数のユーザを選択するページを削除します。
[マイグレーショントユーザの選択]	UserSettingsPage	マシン上のユーザのリストから複数のユーザを選択するページをユーザインターフェースから削除します。
[システム設定の選択]	UserSettingsPage	マイグレートするシステム設定を選択するページを削除します。

ページ	コマンド	説明
[アプリケーションと設定の選択] ApplicationsSettingsPage		マイグレートするアプリケーションとアプリケーション設定を選択するページを削除します。
[ファイルとフォルダの選択] FileSelectionPage		マイグレートするファイルとフォルダを選択するページを削除します。
検索フィルタの選択	FilterSelectionPage	マイグレーションのフィルタを定義するページを削除します。

[フィルタ]ページコマンド

[フィルタ] ページの無効化コマンドは以下の表のとおりです。

ページ	コマンド	説明
[設定] タブ 検索フィルタの選択	FilterSelectionPage	[フィルタの選択] ページを無効にします。
[デスティネーション] タブ [フィルタのデスティネーション]	FilterDestinationPage	[フィルタのデスティネーション] ページを無効にします。

[デスティネーション]タブの無効化コマンド

[デスティネーション] タブのページとその機能を無効にするコマンドは以下の表のとおりです。

ページ	コマンド	説明
[デスティネーション] タブ	DestinationSheet	ユーザインターフェースから [デスティネーション] タブとそのすべてのページを削除します。

ページ	コマンド	説明
[DNA のデスティネーション]	DestinationSheetWelcomePage	[デスティネーション]タブの情報/初期ページを削除します。
[DNA ファイルの保存]	DestinationSheetBoxFileBrowsePage	DNA ファイルの作成時に、パス、ファイル名、タイトル、および説明を入力するページを削除します。
[DNA ファイルの保存] - [詳細設定] ボタン	DestinationSheetBoxFileBrowsePage ::Advanced	[DNA ファイルの保存]ページの [詳細設定] ボタンを無効にします。このボタンを使用すると、自己解凍オプション、メディア スパン、データ保護、および DNA ファイルのパスワード保護などのオプションを変更できます。
[デスティネーション オプション]	LocationLevelPage	ユーザ インターフェースでデスティネーションの基本設定 (リダイレクトなし) または詳細設定を選択するためのページを削除します。
[デスティネーション オプション] - [基本設定] ボタン	LocationLevelPage::Basic	DNA ファイルをデスティネーションマシンに適用するときに、[デスティネーション オプション] ページの [基本設定] ボタンを無効にします。
[デスティネーション オプション] - [詳細設定] ボタン	LocationLevelPage::Advanced	DNA ファイルをデスティネーションマシンに適用するときに、[デスティネーション オプション] ページの [詳細設定] ボタンを無効にします。

ページ	コマンド	説明
[デスティネーションの選択]	SimpleLocationOptionsPage	デスティネーションの詳細設定を行うときにアプリケーションや関連ドキュメントの場所をリダイレクトするページを削除します。
[ユーザデスティネーション]	UserDestinationsPage	デスティネーションの詳細設定を行うときにユーザの場所をリダイレクトするページを削除します。
[アプリケーションのデスティネーション]	AppLocationOptionsPage	デスティネーションの詳細設定を行うときにアプリケーションや関連ドキュメントの場所をリダイレクトするページを削除します。
[ファイルとフォルダのデスティネーション]	FileLocationOptionsPage	デスティネーションの詳細設定を行うときにファイル、フォルダ、およびフィルタの場所をリダイレクトするページを削除します。
[フィルタのデスティネーション]	FilterDestinationPage	デスティネーションの詳細設定を行うときにフィルタの場所をリダイレクトするページを削除します。

[マイグレーション]タブの無効化コマンド

[マイグレーション] タブのページとその機能を無効にするコマンドは以下の表のとおりです。

ページ	コマンド	説明
[マイグレーション] タブ	TransferSheet	ユーザ インターフェースから [マイグレーション] タブとそのすべてのページを削除します。

[ログ]タブの無効化コマンド

ページ	コマンド	説明
[DNA のマイグレーション]	TransferSheetWelcomePage	[マイグレーション] タブの情報/初期画面ページを削除します。
[マイグレーションを待機中] と [システムをマイグレート中]	TransferStatusPage	マイグレーションの開始やステータスの監視に使用するページを削除します。
[マイグレーションを待機中] - [開始] ボタン	TransferStatusPage::Start	[開始] ボタンを無効にします。
[システムをマイグレート中] - [停止] ボタン	TransferStatusPage::Stop	マイグレーション開始後に [停止] ボタンを無効にします。
[マイグレーションが完了しました] - [ファイルのサマリ] ボタン	TransferStatuspage::FileInfo	DNA ファイル作成後に [ファイルのサマリ] ボタンを無効にします。

[ログ]タブの無効化コマンド

[ログ] タブのページとその機能を無効にするコマンドは以下の表のとおりです。

ページ	コマンド	説明
[ログ] タブ	LogsSheet	ユーザ インターフェースから [ログ] タブとそのすべてのページを削除します。
[マイグレーション ログ]	LogsSheetWelcomePage	[ログ] タブの情報/初期画面ページを削除します。
[セッション ログとアンドゥ]	UndoPage	マイグレーション結果を表示してマイグレーション全体または選択した一部を元に戻すためのページを削除します。
[セッション ログとアンドゥ] - [元に戻す] ボタン	UndoPage::Undo	[元に戻す] ボタンを無効にします。

ページ	コマンド	説明
[セッションログとアンドゥ]-[アンドゥファイルのロード] ボタン	UndoPage::LoadUndo	[アンドゥファイルのロード] ボタンを無効にします。このボタンをクリックすると、以前作成したアンドゥファイルを開くことができます。
[マイグレーションイベントログ]	EventPage	すべてのマイグレーションメッセージが記録されたイベントログを表示するページを削除します。
[マイグレーションが完了しました]	CongratulationsPage	完了メッセージを表示して新しいマイグレーションを開始するためのページを削除します。
[マイグレーションが完了しました]-[新規マイグレーション] ボタン	NewMigration	[マイグレーションが完了しました]ページの[新規マイグレーション] ボタンを削除します。

メニューその他の無効化コマンド

メニューその他の機能を無効化するコマンドは以下の表のとおりです。

メニュー	ページ	コマンド	説明
ファイル	[ファイル] - [新規マイグレーション]	NewMigration	[ファイル]メニューから[新規マイグレーション]を削除します。
	[ファイル] - [開く] - [テンプレート]	LoadTemplate	[ファイル] - [開く] から [テンプレート] を削除します。
	[ファイル] - [開く] - [DNAファイル]	OpenDNAFile	[ファイル] - [開く] から [DNAファイル] を削除します。
	[ファイル] - [テンプレートの保存]	SaveTemplate	[ファイル]メニューから[テンプレートの保存]を削除します。
Windows	[ウィンドウ] - [検索フィルタ]	SearchFilters	[ウィンドウ]メニューから[検索フィルタ]を削除します。

メニュー	ページ	コマンド	説明
[オプション]	[オプション] - [設定]	KhanSheet::OptionsSettings	[オプション]メニューから[設定]を削除します。
	[オプション] - [ログ]	OptionsDialog::Logs	[オプション]メニューから[ログ]を削除します。
その他	ページ	コマンド	説明
		RestartRequiredDialog	マイグレーションが完了したときに[再起動してください]ダイアログボックスを表示しません。
		CommandLineHelp	コマンドラインでユーザが「/?」パラメータを入力したとき、またはコマンドラインでエラーが検出されたときに表示されるコマンドラインヘルプダイアログボックスを削除します。

第 4 章: コマンドラインを使用したバックアップの再スケジュール

この章では、コマンドラインを使用してバックアップをスケジュールする方法について説明します。

コマンドラインの構文

このコマンドは、DMM Always Current Scheduler によって自動的に発行されます。スケジュール済みのタスクの実行前に、バックアップの再スケジュールやキャンセルを選択できるダイアログボックスが DMM Always Current Scheduler によって表示されます。再スケジュールする場合、コマンドが実行され、DMM Always Current Scheduler が開きます。ここでタスクを実行する別の時間を選択できます。

コマンドラインを実行するための構文は以下のとおりです。

```
"installation path\DNAScheduler.exe" /reschedule "[.dmx file path]"
```

各項目の説明

`/reschedule`

タスクを別の時間に再スケジュールするために、DMM Always Current Scheduler を開きます。

第 5 章: CA DMM のリターンコード

CA DMM は、マイグレーションの結果を外部プログラムと通信するためにエラーリターンコードを返します。CA DMM は、終了コードとして以下の操作完了ステータスコードを返します。

コード	説明
1	操作が正常に終了しました。再起動する必要はありません。
2	操作が正常に終了しました。再起動する必要があります。
3	レジストリ エントリが正常にアンインストールされました。
-1	コマンドライン オプションが無効または不足しています。
-2	初期化が失敗しました (必要な DLL を初期化できないなど)。
-3	操作が失敗しました (マイグレーションが中止されました)。
-4	CA DMM がマイグレーションを試行せずに終了しました (たとえば、マイグレーション前にユーザによってキャンセルされた場合など)。
-5	コマンドラインで指定したテンプレート ファイルが無効または開くことができません。
-6	予約済み。このエラーが発生した場合は、テクニカルサポートにお問い合わせください。
-7	コマンドラインで存在しない DMM オプションファイルが指定されました。DMM オプションファイルが /O コマンドで指定されています。
-8	コマンドラインで無効な DMM オプションファイルが指定されました。DMM オプションファイルが /O コマンドで指定されています。
-9	マイグレーション用に有効なユーザ プロファイルが選択されませんでした。
-10	権限が不足しているか、またはオペレーティング システムの設定が原因で、複数のユーザのマイグレーションを有効にできませんでした。
-11	コマンドラインで無効なリビジョン日付が指定されました。
-12	チェックサムの失敗が原因で DNA ファイルを保存/適用できませんでした (DNA ファイルが破損しています)。
-13	コマンドラインで指定したドライブが不正です。
-14	リクエストした操作はサポートされていません。

第 6 章: DMM Director のリターンコード

CA DMM は、マイグレーションの結果を外部プログラムと通信するためにエラーリターンコードを返します。DMM Director は、終了コードとして以下の操作完了ステータスコードを返します。

コード	説明
-100	無効なコマンドです。
-101	初期化できませんでした。
-102	無効な DMM マイグレーションファイル (.dmx) です。
-103	テンプレートファイルが指定されていないか利用できません。
-104	テンプレートエラーです。
-105	CA DMM が利用できません。
-106	無効なオプションが指定されました。
-107	ライブラリ インストーラが利用できません。
-108	ライブラリ インストーラのエラーです。
-109	DCOM95 のエラーです。
-110	コマンドが見つかりません。
-111	CA DMM インストーラが利用できません。
-112	CA DMM のインストールエラーです。
-113	CA DMM のエラーです。
-114	DDNAOptions.dox ファイルのエラーです。
-115	IEInstall オプションが利用できません。
-116	Internet Explorer のインストールエラーです。

第 7 章: CA DMM のオプション

CA DMM には、動作を制御するためのさまざまなオプションがあります。これらのオプションは以下のいずれかの方法で設定します。

- [オプション] メニューで設定する
- DMM オプション ファイルで設定する (デフォルトは DDNAOptions.xml)

このセクションでは、これらのすべてのオプションについて詳しく説明します。

一般オプション

設定可能な一般オプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
コマンドライン	CA DMM を実行するときに使用するコマンドラインを指定します。	コマンドラインを入力して、CA DMM を実行することができます。詳細については、「 コマンドラインインターフェース (P. 11) 」を参照してください。	有効な CA DMM のコマンドライン。詳細については、「 コマンド (16P.) ラインスイッチ 」を参照してください。	DMM Director を使用している場合は使用しないでください。 DMM Director によってコマンドラインが自動的に作成されます。
圧縮方法	DNA ファイルの圧縮方法を指定します。	DNA ファイルの作成時に使用する圧縮レベルを指定します。	0 = なし 1 = 高速 2 = 最小 デフォルト値は [高速] です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
圧縮が無効になっていることを警告しない	圧縮が無効になっている場合に、ユーザーに警告するかどうかを指定します。	True の場合は、DNA ファイルの作成前に、圧縮が無効になっていることをユーザーに警告するメッセージが表示されます。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	圧縮オプションは False に設定する必要があります。
スクリプトディレクトリが見つからなくても警告しない	スクリプトディレクトリが見つからない場合に、ユーザーに通知するかどうかを指定します。	True の場合は、スクリプトディレクトリが見つからないときに警告ダイアログボックスが表示されます。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
デフォルトの DNA ファイル名	[デフォルトのファイル名と一致するファイルのみを表示する] チェックボックスがオンのときに、[DNA ファイルを開く] リストに表示する DNA ファイルのファイル名構造を指定します。	[デフォルトのファイル名と一致するファイルのみを表示する] チェックボックスがオンの場合は、指定した名前構造と一致する DNA ファイルのみが DNA ファイルのリストに表示されます。	有効なパスおよびファイル名。 パスおよびファイル名には、環境変数と DMM 変数を使用できます。 デフォルト値は「...¥Documents and Settings¥My Documents¥%DNA_machine_name %%DNA_date%_%DNA_time%.dna」です。	なし。
DNA ファイルのパス	[DNA ファイルを開く] ページに表示する DNA ファイルの検索ディレクトリを指定します。	このパス内にあるファイルのみが [DNA ファイルを開く] リストに表示されます。 [DNA ファイルのパス] オプションに http サーバの場所を指定することはできません。	有効なパス。複数のパスを指定するには、各パスの間にセミコロン (;) を 1 つ入力します。 パスおよびファイル名には、環境変数と DMM 変数を使用できます。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
デフォルトの テンプレート ファイル名	[テンプレートファ イルを開く] ページ に表示するテンプ レートファイルの ファイル名構造を指 定します。	[デフォルトの ファイル名と一致 するファイルのみ を表示する] チェックボック スがオンの場合 は、指定した名前 構造と一致するテ ンプレートファ イルのみがテンプ レートファイル のリストに表示さ れます。	有効なパスおよびファイ ル名。 パスおよびファイル名に は、環境変数と DMM 変 数を使用できます。 デフォルト値は「...¥My Documents¥MyDNATempl ate」です。	なし。
テンプレート ファイルのパス	[テンプレートファ イルを開く] ページ に表示するテンプ レートファイルの検 索ディレクトリを指 定します。	このパス内にある ファイルのみがテ ンプレートファ イルのリストに表 示されます。	有効なパスおよびファイ ル名。複数のパスを指定 するには、各パスの間に セミコロン (;) を1つ入 力します。 パスおよびファイル名に は、環境変数と DMM 変 数を使用できます。	なし。
初期画面を表 示しない	初期画面を無効にす るかどうかを指定し ます。	True の場合は、各 タブの初期画面が 表示されません。	1 = True 0 = False デフォルト値は False で す。	なし
ネットワーク ドライブを マップする	マップされたネット ワークドライブのマ イグレートが可能に するかどうかを指定 します。	True の場合は、 マップされたネッ トワークドライ ブをソースワー クステーションか らデスティネー ションワークス テーションにマイ グレートできま す。	1 = True (マップ) 2 = False (マップしない) デフォルト値は True で す。	なし

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
特別なフォルダのサブフォルダをマイグレートする	特殊フォルダ（[マイドキュメント] など）がマイグレーション対象として選択された場合に、すべてのサブフォルダをマイグレートするかどうかを指定します。	True の場合は、すべてのサブフォルダがマイグレートされます。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
特殊フォルダのデフォルトの場所をリセットする	デスティネーションで特殊フォルダをリダイレクトする場合に、デフォルトの場所として再登録するかどうかを指定します。	True の場合は、特殊フォルダの新しい場所がデフォルトの場所になります。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。
[ファイルとフォルダの選択] ページに特殊フォルダを表示する	[ファイルとフォルダの選択] ページで、特殊フォルダ（[マイドキュメント] など）をユーザが選択できるようにするかどうかを指定します。	False の場合は、マイドキュメントフォルダが [ファイルとフォルダの選択] ページに表示されません。 Personal の場合、マイドキュメントを選択するチェックボックスが表示されます。	Personal False デフォルト値は Personal です（マイドキュメントを表示します）。	なし。
マイグレーションの上書き	DNA ファイルを適用するときに、重複するファイルを上書きするかどうかを指定します。	ファイルがデスティネーションマシンに適用されるときに、重複するファイルを上書きする条件を指定します。	0 = なし 1 = 新規 2 = 常時 デフォルト値は 1 （新規）です。	

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
リビジョンの上書き	DNA ファイルのリビジョンを適用するときに、重複するファイルを上書きするかどうかを指定します。	ファイルがデスティネーションマシンに適用されるときに、重複するファイルを上書きする条件を指定します。	0 = なし 1 = 新規 2 = 常時 デフォルト値は 2 (常時) です。	なし。
[ディレクトリ構造を保持する]	マイグレートされたファイルのパスを元のパスと同じにするかどうかを指定します。	True の場合は、フィルタを使用してマイグレートされたファイルが格納されるときに、ファイルの元のパスが保持されます。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
スクリプトディレクトリ	スクリプトディレクトリのパスを指定します。	CA DMM のスクリプトが格納されるディレクトリを定義します。 入力するパスには、サブディレクトリ「Application Scripts」および「System Scripts」を含める必要があります。	有効なパスおよびファイル名。 デフォルト値はインストールパスです。	なし。
アプリケーションを表示する	マイグレートするアプリケーションを、ユーザが選択できるようにするかどうかを指定します。	True の場合は、ユーザは [アプリケーションとアプリケーションの設定の選択] ページで、マイグレートするアプリケーションを選択できます。	1 = True 2 = False デフォルト値は False です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
隠しファイルを表示しない	マイグレートする隠しファイルを、ユーザが選択できないようにするかどうかを指定します。	True の場合は、ユーザはマイグレートする隠しファイルを選択できません。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
システムファイルを表示しない	マイグレートするシステムファイルを、ユーザが選択できないようにするかどうかを指定します。	True の場合は、ユーザはマイグレートするシステムファイルを選択できません。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
ネットワークドライブを表示する	ユーザがネットワークドライブにファイルをリダイレクトできるようにするかどうかを指定します。	True の場合は、ユーザはデステーションのネットワークドライブ上にファイルおよびフォルダをリダイレクトできます。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
スクリプトエラーを通知しない	スクリプトエラーが発生した場合に、エラーメッセージを表示しないようにするかどうかを指定します。	True の場合は、スクリプトエラーが発生してもメッセージが表示されません。カスタムスクリプトをテストする場合は、このオプションを使用すると便利です。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
Disk To Disk Migration	ディスクからディスクのマイグレーションを実行するかどうかを指定します。	True の場合、ディスクからディスクのマイグレーションが有効にされ、ディスクからディスクのマイグレーションを実行できます。ディスクからディスクのマイグレーションは、遅延マイグレーションモードの場合のみ実行可能です。ディスクからディスクのマイグレーションを実行する前に、スレーブディスクが接続されていることを確認してください。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。

[詳細オプション]

詳細オプションの表に、CA DMM で設定できる詳細オプションのリストを示します。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
重要なファイルリスト	重要なファイルを指定します。	重要なファイルのリストを定義します。	デフォルト値は io.sys boot.ini msdos.sys autoexec.bat codify.sys	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
クリティカルなファイルまたはフォルダが選択されていても警告しない	重要なファイルがマイグレーション対象として選択された場合に、ユーザに警告しないようにするかどうかを指定します。	True の場合は、オペレーティングシステムにとって重要なファイルがマイグレーション対象として選択されたときに、ユーザに警告メッセージが表示されません。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。
壊れたデスクトップショートカットをマイグレートしない	壊れたデスクトップのショートカットをマイグレーションから除外するかどうかを指定します。	True の場合は、マイグレーション中に解決できないユーザのデスクトップ上のショートカットがマイグレートされません。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。
壊れたクイック起動ショートカットをマイグレートしない	壊れたクイック起動のショートカットをマイグレーションから除外するかどうかを指定します。	True の場合は、マイグレーション中に解決できないクイック起動のショートカットがマイグレートされません。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。
壊れた [スタート] メニューショートカットをマイグレートしない	壊れた [スタート] メニューのショートカットをマイグレーションから除外するかどうかを指定します。	True の場合は、スタートアップ中に解決できない [スタート] メニューのショートカットはマイグレートされません。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。
壊れたスタートアップショートカットをマイグレートしない	壊れた [スタートアップ] のショートカットをマイグレーションから除外するかどうかを指定します。	True の場合は、解決できない [スタートアップ] のショートカットはマイグレートされません。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。
リンクの切れたショートカットをマイグレートしない	壊れたショートカットをマイグレーションから除外するかどうかを指定します。	True の場合は、マイグレーション中に解決できないショートカットはマイグレートされません。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
壊れたデスクトップのショートカットをフォルダに移動する	壊れたデスクトップのショートカットをフォルダに移動するかどうかを指定します。	True の場合は、マイグレーション中に解決できないショートカットはデスクトップの壊れたショートカットディレクトリに移動されます。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
ファイル IO バッファ サイズ (バイト)	DNA ファイルを使用するときのバッファのサイズを指定します。	IO バッファの値を大きくすると、パフォーマンスとメモリ使用率が向上する可能性があります。	デフォルト値は「1048576」です。	なし。
ディスクの空き容量のマージン (KB)	DNA ファイルの作成に必要なディスクの空き容量を指定します。	DNA ファイルの作成に必要なディスク容量のマージンを定義します。 DNA ファイル作成時に、DNA ファイルサイズにこのマージンを加えた容量を超えることはありません。	デフォルト値は「64」KB です。	なし。
リムーバブルディスクの空き容量のマージン (KB)	DNA ファイルの保存に必要なリムーバブルディスクの空き容量を指定します。	リムーバブルメディアでの DNA ファイルの作成時に必要なディスク容量のマージンを定義します。DNA ファイルの作成時に、DNA ファイルのサイズとこのマージンの合計を超えることはありません。指定したマージンが必要な最小スパンサイズよりも少ない場合、マージンは 1 KB に自動的に設定されます。	デフォルト値は「1」KB です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
名前と場所のフィルタのパス	名前と場所のフィルタを作成するための特定のファイルまたはフォルダを検索するパスを指定します。	このオプションには、名前と場所のフィルタを使用するときに特定のファイルまたはフォルダを検索するパスを指定します。	空白	なし。
名前と場所のフィルタのファイル名	名前と場所のフィルタを作成するファイルまたはフォルダの名前を指定します。	このオプションでは、名前と場所のフィルタの作成時にマイグレートされるファイルまたはフォルダの名前を定義します。	空白	なし。
最大 FAT32 ファイル サイズ (MB)	FAT32 ファイルの最大許容サイズを指定します。	FAT32 システムで作成可能な DNA ファイルの最大サイズを定義します。	デフォルト値は「4096」MB です。	なし。
最大 NTFS ファイル サイズ (MB)	NTFS ファイルの最大許容サイズを指定します。	NTFS システムで作成可能な DNA ファイルの最大サイズを定義します。	デフォルト値は「0」(制限なし) です。	なし。
最大 FAT ファイル サイズ (MB)	FAT ファイルの最大許容サイズを指定します。	FAT ファイルシステム上に作成できる DNA ファイルの最大サイズを定義します。	デフォルト値は「2048」です。	なし。
最大レジストリ値サイズ (KB)	レジストリ値の最大許容サイズを指定します。	作成可能なレジストリ値の最大サイズを定義します。	デフォルト値は「64」KB です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
最大マップ ファイルサイ ズ (KB)	マップされたファイ ルの最大サイズを指 定します。	このオプションで制限 されるのは、最大値を 超えたファイルのマッ ピングのみです。最大 サイズを超えたファイ ルは、デスティネー ションマシンにマイ グレートされますが、 マップされません。 大きいファイルがマッ プされると、パフォー マンスとメモリ使用量 に影響する可能性があ ります。	デフォルト値は「10」 KB です。	なし。
最大 VSS タイ ムアウト (ミ リ秒)	VSS がタイムアウト になるまでの最長時 間を秒単位で指定し ます。	このオプションは、VSS のタイムアウト制限を 秒単位で設定するため に使用します。	デフォルト値は 120,000 ms です。	なし。
圧縮不能ファ イルリスト	DNA ファイルの作成 時に圧縮しないファ イルの種類を指定し ます。	圧縮不能ファイルリ ストでは、DNA ファイ ルの作成時に圧縮しな いファイルの拡張子を 定義します。	ファイル名はパイプ 「 」で区切って指定し ます。 デフォルト値は Z ZIP RAR ARJ ACE LZ H LHA CAB SEA SIT GIF PFB MP3 MPG RM LEX P NG PST *_	このオプ ション は、[圧 縮] がオ ンになっ ている場 合のみ有 効です。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
レジストリ除外リストのパス	レジストリ除外リストファイルのパスを指定します。	レジストリ除外リストファイルには、マイグレーションから除外するレジストリアイテムのリストが含まれています。	有効なパスおよびファイル名。 デフォルト値は「CA DMM reg exclude.dnax」です。	デフォルトの除外リストの場所を変更しないかぎり、このオプションは変更しないでください。
登録除外リストのパス	登録除外リストファイルのパスを指定します。	登録除外リストファイルには、マイグレーション中に登録しないファイルのリストが含まれます。	有効なパスおよびファイル名。 デフォルト値は「CA DMM Non Register exclude.dnax」です。	デフォルトの登録除外リストファイルの場所を変更しないかぎり、このオプションは変更しないでください。
DMM メモリマップのパス	DMM メモリマップログを保存するパスを指定します。	DNA ファイルの作成中にファイルの破損が検出されると、この場所にデバッグログが書き込まれます。	有効なパスおよびファイル名。 デフォルトのファイル名は「DNAMemoryMap.log」です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
ファイル除外リストのパス	除外リストファイルのパスを指定します。	ファイル除外リストには、マイグレーション中に除外されるファイルのリストが含まれます。	有効なパスおよびファイル名。 デフォルトのファイル名は「Desktop DNA exclude.dnax」です。	デフォルトの除外リストファイルの場所を変更しないかぎり、このオプションは変更しないでください。
NTFS ストリーム除外リストのパス	NTFS ストリーム除外リストファイルのパスを指定します。	NTFS ストリーム除外リストには、マイグレーション中に除外される一連の NTFS ストリーム名が含まれます。	有効なパスおよびファイル名。 デフォルトのファイル名は「Desktop DNA NTFS stream exclude.dnax」です。	なし。
DNA ファイルを検証する	チェックサムを追加して DNA ファイルを検証するかどうかを指定します。	True の場合は、DNA ファイルの作成時にチェックサムが計算され、ファイル内に保存されます。DNA ファイルを開くと、検証が行われ、そのファイルがチェックサムと一致するかどうかを確認されます。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。 このオプションを有効にすると、DNA ファイルを作成したり開く速度が遅くなります。	なし。
仮想メモリ (MB)	仮想メモリに使用可能なディスク容量を指定します。	仮想メモリのスワップファイルがあるドライブにこの容量以上のディスク容量 (MB) がない限り、CA DMM は動作しません。	デフォルト値は「100」MB です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
仮想メモリについて警告しない	マイグレーション中に仮想メモリの容量が少なくなった場合に、ユーザに警告しないようにするかどうかを指定します。	True の場合は、仮想メモリ容量が少なくなっていることをユーザに警告するメッセージが表示されます。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
致命的でないマイグレーションエラー	発生してもマイグレーションを中止する必要がない Win32 エラー番号を指定します。	リストに入力した Win32 エラー番号が発生しても、マイグレーションは中止されません。	有効な Win32 エラー番号。 デフォルト値は「0,2,3,5,30,32,183,206,1005」です。	なし。
スクリプトの比較に日付を使用する	ソースシステムとデスティネーションシステムのスクリプトの日付が異なる場合に、エラーメッセージを表示するかどうかを指定します。	True の場合は、リアルタイムマイグレーションを実行するときに、ソースとデスティネーションのスクリプトの日付が異なっていると、メッセージが表示されます。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。
アイテムを選択しないで DNA ファイルを開く	DNA ファイルを開くときに、アイテムを 1 つも選択しないで開くかどうかを指定します。	True の場合は、マイグレートするアイテムが選択されていない状態で DNA ファイルがロードされます。この場合は、テンプレートを開き、テンプレートで選択した項目のみを適用できます（選択適用）。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	DNA ファイルを開くときに、デスティネーションマシンで使用する必要があります。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
選択したすべてのユーザの設定に基づいてスクリプトを検出する	選択したすべてのユーザ、または現在選択している 1 人のユーザのどちらの設定に基づいてシステムスクリプトとアプリケーションスクリプトを検出するかを指定します。	False の場合は、複数のユーザのマイグレーションの検出が処理速度の遅いシステムでより早く完了します。ただし、ユーザ固有の設定の一部がまれに検出されない可能性があります。すべての設定を確実に表示するには、True を指定します。 注: 一部の古いスクリプトを正常に動作させるには、複数のユーザの検出が必要な場合があります。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
Windows エクスプローラを停止しない	マイグレーション中に CA DMM によって Windows エクスプローラが停止されないようにするかどうかを指定します。	True の場合は、マイグレーション中に Windows エクスプローラが停止されません。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。
Windows エクスプローラを再起動しない	CA DMM によって、マイグレーション中に Windows エクスプローラが停止されることがあります。マイグレーションの完了後に CA DMM によって Windows エクスプローラが再起動されないようにするかどうかを指定します。	True の場合は、マイグレーションの完了後に Windows エクスプローラが再起動されません。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。

64ビット構成オプション

設定可能な64ビット構成オプションの64ビットオプションは以下の表のとおりです。これらのオプションは、宛先が64ビットOSの場合のみ適用できます。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
64ビット適用	使用する構成の種類を指定します。	<p>使用するオプションを決定します。 初期設定： 以下のシナリオが含まれます。</p> <p>ソース：32ビットOS、宛先：64ビットOS -- ソースコンピュータの32ビットアプリケーションの設定を宛先(64ビットOS)の32ビットアプリケーションに適用します。</p> <p>ソース：64ビットOS、宛先：64ビットOS -- ソースコンピュータの32ビットアプリケーションの設定を宛先(64ビットOS)の32ビットアプリケーションに適用します。</p> <p>-- ソースコンピュータの64ビットアプリケーションの設定を宛先(64ビットOS)の64ビットアプリケーションに適用します。</p>	<p>デフォルト 64-bit [両方]</p> <p>デフォルト値はデフォルトのオプションです。</p>	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
		<p>64ビットのみ: 以下のシナリオが含まれます。 ソース : 32 ビット OS、宛先 : 64 ビット OS -- ソース コンピュータの 32 ビット アプリケーションの設定を宛先 (64 ビット OS) の 64 ビットアプリケー ションに適用します。 ソース : 64 ビット OS、宛先 : 64 ビット OS -- ソース コンピュータの 32 ビット アプリケーションの設定と 64 ビット アプリケーションの設定を宛先 (64 ビット OS) の 64 ビットアプリ ケーションに適用します。</p>		

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
		<p>両方： 以下のシナリオが含まれます。 ソース：32ビットOS、宛先：64ビットOS -- ソースコンピュータの32ビットアプリケーションの設定を宛先(64ビットOS)の32ビットアプリケーションと64ビットアプリケーションの両方に適用します。 ソース：64ビットOS、宛先：64ビットOS -- ソースコンピュータの32ビットアプリケーションの設定を宛先(64ビットOS)の32ビットアプリケーションと64ビットアプリケーションの両方に適用します。 -- ソースコンピュータの64ビットアプリケーションの設定を宛先(64ビットOS)の64ビットアプリケーションに適用します。 注：32ビットアプリケーション(宛先)への64ビットアプリケーション(ソース)のマイグレーションはサポートされていません。</p>		

リアルタイムマイグレーションオプション

設定可能なリアルタイムマイグレーションオプションのリストは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
ブロードキャストを有効にする	リアルタイムマイグレーションを実行するときに、ネットワーク上の IP アドレスをブロードキャストするかどうかを指定します。	True の場合は、CA DMM はブロードキャストを使用して、マイグレーションに利用できるマシンを検索します。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	リアルタイムマイグレーションを実行する必要があります。
Ipv6 マルチキャストの環境を有効にする	IPv6 マルチキャストिंगを使用してサブネット内のソースコンピュータを検索するかどうかを指定します。	True の場合は、CA DMM では IPv6 ソースコンピュータに IPv6 マルチキャストिंगを使用します。False の場合は、IPv4 ソースコンピュータに IPv4 を使用します。	True または False。 デフォルト値は False です。	リアルタイムマイグレーションを実行する必要があります。
ブロードキャストの試行の遅延	ブロードキャストの間隔をミリ秒単位で指定します。	ネットワーク上の他のブロードキャストマシンを検索するときの、ブロードキャスト間隔をミリ秒単位で定義します。	整数 デフォルト値は「1000」です。	リアルタイムマイグレーションを実行する必要があります。
IP アドレス検索を有効にする	ブロードキャストを行っていることが最初に検出されたワークステーションの IP アドレスをソースマシンとして表示するかどうかを指定します。	True の場合は、ネットワークマイグレーションにおけるデスティネーションマシンが、ソースとして稼働する他のワークステーションを検索し、最初に検索されたワークステーションの IP アドレスが表示されません。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
ネットワークバージョン	リアルタイムマイグレーションを実行するときに接続する CA DMM のバージョンを指定します。	この値を設定すると、ソースマシンとして確認できる CA DMM のバージョンが制限されます。たとえば、デフォルト値が「11000」の場合、[ネットワークバージョン] オプションにこれと同じ番号を指定してブロードキャストしているソースマシンのみ接続できません。この値の変更はお勧めしません。	デフォルト値は「11000」です。	リアルタイムマイグレーションを実行する必要があります。
TCP ポート	使用するポートを指定します。	リアルタイムマイグレーションを実行するときに使用するポートを指定します。	整数 デフォルト値は「2763」です。	リアルタイムマイグレーションを実行する必要があります。
UDP ポート	使用するポートを指定します。	リアルタイムマイグレーションを実行するときに使用するポートを指定します。	整数 デフォルト値は「2763」です。	リアルタイムマイグレーションを実行する必要があります。
ファイアウォール保護に関する警告を表示しない	Windows XP のインターネット接続ファイアウォールについて、ユーザに警告するかどうかを指定します。	True の場合は、リアルタイム接続前にユーザに警告メッセージを表示しません。	True または False。 デフォルト値は True です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
リアルタイム圧縮しきい値	ネットワークでファイルを送信する前にしきい値より大きいファイルを圧縮しません（圧縮オプションが有効な場合）。	ほとんどの場合、デフォルト値を使用します。ネットワークの帯域幅が低い場合は、圧縮しきい値を下げるできます。ネットワークの帯域幅が高い場合は、圧縮しきい値を上げることができます。	10240 KB（10 MB）～ 1048576 KB（1 GB）の整数値。デフォルトは 102400 KB（100 MB）です。	圧縮が有効になっている必要があります。圧縮オプションは[一般]ブランチから有効にすることができます。

ログ オプション

設定可能なログ オプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1（True）または0（False）で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
ログ オプションの変更を許可する	ユーザがログ オプションを変更できるようにするかどうかを指定します。	True の場合は、ユーザが CA DMM ユーザ インターフェースから、このオプションファイルで設定されたログ オプションを変更できます。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。

DMM ログ セクションには以下のサブセクションがあります。

- [イベント ログ](#) (P. 78)
- [マニフェスト ログ](#) (P. 79)
- [アンドゥ ログ](#) (P. 84)
- [パスワード ログ](#) (P. 86)
- [デバッグ ログ](#) (P. 87)
- [ネットワーク ログ](#) (P. 88)

イベント ログ オプション

設定可能なイベント ログ オプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
イベント ログを作成する	イベント ログを作成するかどうかを指定します。	True の場合は、イベント ログを作成します。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
固有のイベント ログを作成する	イベント ログの名前に日時スタンプを追加するかどうかを指定します。	このオプションを有効にすると、常に固有のイベント ログが作成されます。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
イベント ログの上書きを警告しない	既存のイベント ログが別のイベント ログで上書きされる場合に、ユーザに通知しないようにするか指定します。	True の場合は、イベント ログの上書きが発生しても警告が表示されません。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
イベント ログレベル	イベント ログに記録する詳細レベルを指定します。	イベント ログに、どの程度詳細な情報を記録するか定義します。	0 = エラー 1 = 警告 2 = 情報 デフォルト値は [エラー] です。	なし。
イベント ログの保存先のパス	イベント ログを保存する場所を指定します。	イベント ログを保存するディレクトリを定義します。	有効なパスおよびファイル名。 デフォルト値は「My documents¥Logs¥%DNA_machine_name%_DNAEvent.log」です。 パスおよびファイル名には、環境変数と DMM 変数を使用できます。	なし。

マニフェスト ログ オプション

マニフェスト ログは、マイグレーションの実行時に作成できるログ ファイルです。マニフェスト ログは、マイグレーションの詳細な内容を記録する XML ベースのファイルです。マニフェスト ログを使用すると、以下の処理が実行できます。

- 品質保証チェックの一部として、プログラムまたは手動で DNA ファイルの内容を検証する
- DNA ファイルにマイグレートされた内容と DNA ファイルからデスティネーションシステムに適用された内容を記録する
- レポートまたは記録保管用に、マニフェストをデータベースにインポートする
- データ マイニングを実行して、ユーザがデータの格納（ハードディスク ドライブまたは共有データ）に必要とする平均空き容量や、ユーザのシステムに含まれるファイルの量（タイプとサイズ）などを決定する

注: 遅延マイグレーションの場合、ソース システムとデスティネーション システムの両方でマニフェスト ログを作成できます。リアルタイム マイグレーションの場合、デスティネーション システムでのみマニフェスト ログを作成できます。デスティネーション システムに記録されるマニフェスト ログでは、リアルタイム マイグレーションと遅延マイグレーションどちらの場合も、設定とファイルのソースパスとデスティネーションパスが記録されます。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
マニフェスト ログを作成する	マニフェスト ログを作成するかどうかを指定します。	マニフェスト ログを作成するかどうかを定義します。 遅延マイグレーションの場合、ソースとデスティネーションの両方でマニフェスト ログが作成されます。 リアルタイム マイグレーションの場合、デスティネーションでのみマニフェスト ログが作成されます。	True または False デフォルト値は False です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
マニフェストログの保存先のパス	マニフェストログを保存する場所を指定します。	マニフェストログを保存するディレクトリとファイル名を定義します。 注: 遅延マイグレーションの実行中にソースとデスティネーション両方のマニフェストログを保存する場合は、ログにそれぞれ別の名前を付ける必要があります。これを行うには、ファイル名に時刻の DMM 変数を追加します。 ...¥Log¥¥%DNA_Machine_Name%_%DNA_Time%_DNAManifest.xml	有効なパスおよびファイル名。 デフォルト値は「...My Documents¥Logs¥¥%DNA_Machine_Name%_DNAManifest.xml」です。 パスおよびファイル名には、環境変数と DMM 変数を使用できます。	マニフェストログオプションが「True」に設定されている必要があります。

マニフェスト ログの例

以下は、遅延マイグレーションを実行したときにデスティネーションマシンに作成されるマニフェスト ログの例です。

```

- <DNAManifest>
  - <DNAHeader>
    <User>ドメインまたは Active Directory*ユーザ名</User>
    <TemplateFile>テンプレート ファイルのパスと名前</TemplateFile>
    <StartTime>マイグレーションの開始日時</StartTime>
    <DNAFile>遅延マイグレーションの DNA ファイルのパスと名前。 リアル タイム マイグレーションでは記録されません</DNAFile>
    <StopTime>マイグレーションの完了日時</StopTime>
    <TotalAmountMigrated>マイグレートされた総バイト数</TotalAmountMigrated>
  </DNAHeader>
  - <MigratedOptions>
    - <Option Name="ソース マシンにあるすべてのユーザ プロファイル">
      - このセクションには、ユーザ、システム設定、アプリケーション設定など、マイグレーション用に選択されたオプションが階層的に記録されます。
    </Option>
  </MigratedOptions>
  - <MigratedDNA>
    - このセクションには、マイグレートされた DNA が種類ごとに記録されます。 DNA には、レジストリ値とファイルの 2 つの種類があります。 この例はデスティネーション マシンの例であるため、DNA の種類ごとにソース パスとデスティネーション パスが記録されます。 ソース マイグレーションの場合は、ソース パスのみが記録されます。
    <DNA Type="RegistryValue">
      <SourcePath>レジストリ値のソース パス</SourcePath>
      <DestinationPath>デスティネーションのパスとファイル名</DestinationPath>
    </DNA>
    <DNA Type="File">
      <SourcePath>マイグレートされたファイルのソース パス</SourcePath>
      <Size>ファイル サイズ</Size>
      <DestinationPath>マイグレートされたファイルのデスティネーション パス
    </DestinationPath>
    </DNA>
  </MigratedDNA>
</DNAManifest>

```

マニフェスト ログの詳細

マニフェスト ログに記録されるフィールドの詳細は以下の表のとおりです。

Section	フィールド	定義
<DNAHeader>	<User>	マイグレーションを実行するためにログオンしたユーザの名前です。形式は「ドメインまたは Active Directory¥ユーザ名」です。 例： <User>Domain 1¥Michael</User>
	<TemplateFile>	マイグレーション中に使用されたテンプレート ファイルのパスとファイル名です。 例： <TemplateFile>¥¥Server¥TemplateA.dtf</TemplateFile>
	<StartTime>	マイグレーションの開始日時です。 例： <StartTime>2003-09-25T14:20:53</StartTime>
	<DNAFile>	DNA ファイルの保存場所のパスとファイル名です。 例： <DNAFile>¥¥DataServer¥DNA¥Michaels DNA.dna</DNAFile> リアルタイム マイグレーション：記録されません。
	<StopTime>	マイグレーションの完了日時です。 例： <StopTime>2003-09-23T14:21:38</StopTime>

Section	フィールド	定義
	<TotalAmountMigrated>	<p>マイグレートされた総バイト数です。</p> <p>例： <TotalAmountMigrated>28749475</TotalAmountMigrated></p> <p>遅延マイグレーションでは、作成された DNA ファイルのサイズ、またはデスティネーションマシンに適用されたデータの量になります。</p> <p>リアルタイムマイグレーションでは、デスティネーションマシンに適用されたデータの量になります。</p>
<MigratedOptions>	<Option Name=>	このセクションには、ユーザ、システム設定、ファイルおよびフォルダなど、マイグレーション用に選択されたオプションが階層的に記録されます。
<MigratedDNA>	<DNA Type="RegistryValue">	
	<SourcePath>	レジストリ値のソースパスです。
	<Destinationpath>	<p>レジストリ値のデスティネーションパスです。デスティネーションのオペレーティングシステムとソースのオペレーティングシステムが異なる場合は、別の場所になることがあります。</p> <p>注: デスティネーションパスは、DNA ファイルをデスティネーションシステムに適用した場合のみ記録されます。このフィールドは、ソースシステムでは記録されません。</p>
	<DNA Type="File">	
	<SourcePath>	マイグレートされたファイルのソースパスです。
	<Size>	マイグレートされたファイルのバイト数です。

Section	フィールド	定義
	<DestinationPath>	<p>ファイルのデスティネーションパスです。</p> <p>注: デスティネーションパスは、DNAをデスティネーションシステムに適用した場合のみ記録されます。このフィールドは、ソースシステムでは記録されません。</p>

アンドウ ログ オプション

設定可能なアンドウ ログ オプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
アンドウ ログを作成する	アンドウ ログを作成するかどうかを指定します。	DNA ファイルがデスティネーションマシンに適用されるときに、アンドウ ログを作成するかどうかを定義します。	<p>1 = True</p> <p>0 = False</p> <p>デフォルト値は True です。</p>	なし。
元に戻す操作を複数回できるようにする	元に戻す操作を、ユーザが複数回実行できるようにするかどうかを指定します。	このオプションを有効にすると、元に戻す操作を複数回実行できるようになります。	<p>1 = True</p> <p>0 = False</p> <p>デフォルト値は False です。</p>	なし。
固有のアンドウ ログを作成する	アンドウ ログの名前に日時スタンプを追加するかどうかを指定します。	True の場合は、固有のアンドウ ログが作成されます。	<p>1 = True</p> <p>0 = False</p> <p>デフォルト値は True です。</p>	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
アンドゥファイルの上書きを警告しない	既存のイベントログがアンドゥログで書きされる場合に、ユーザに通知しないようにするか指定します。	True の場合は、アンドゥログの上書きが発生しても警告が表示されません。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
アンドゥログの保存先のパス	アンドゥログを保存する場所を指定します。	イベントログを保存するディレクトリを定義します。	有効なパスおよびファイル名。デフォルト値は 「My documents¥Logs¥Undo_%DNA_Date%_%DNA_Time%_Migration.exe」です。 パスおよびファイル名には、環境変数と DMM 変数を使用できます。	なし。

パスワード ログ オプション

設定可能なパスワード ログ オプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
割り当てられたパスワードが記録されるログの保存先のパス	新規に作成されたアカウントのパスワードが記録されるログファイルを保存する場所を指定します。	DNA パスワード ログ ファイルを保存するディレクトリを定義します。パスワード ログ ファイルは、アカウントが作成されるたびに保存されます。	有効なパスおよびファイル名。 デフォルト値は My documents¥Logs¥%DNA_machine_name%_DNAPassword.log パスおよびファイル名には、環境変数と DMM 変数を使用できます。	パスワード ログ ファイルは、デスティネーションマシンで新しく作成されるアカウントに割り当てるパスワードを定義している場合のみ保存されます。
パスワード ログを作成する	パスワード ログを作成するかを指定します。	CA DMM がユーザアカウントをマイグレートするときに、パスワード ログを作成するかを指定します。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。

デバッグ ログ オプション

設定可能なデバッグ ログ オプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
デバッグ ログを作成する	デバッグ ログを作成するかどうかを指定します。	DNA ファイルがデスティネーションマシンの適用されるときに、デバッグ ログを作成するかどうかを定義します。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。
デバッグ ログレベル	デバッグ ログに記録する詳細レベルを指定します。	ネットワーク ログに、どの程度詳細な情報を記録するか定義します。	0 = エラー 1 = 警告 2 = 情報 デフォルト値は「エラー」です。	なし。
デバッグ ログをトレースする	デバッグ トレース ログを作成するかどうかを指定します。	True の場合、すべての情報がデバッグ トレース ウィンドウとログ ファイルに保存されます。	True または False。 デフォルト値は False です。	なし。
デバッグ ログの保存先のパス	デバッグ ログを保存する場所を指定します。	デバッグ ログを保存するディレクトリを定義します。	有効なパスおよびファイル名。 デフォルトのパス： My documents¥Logs¥%DNA_machine_name%_DNADebug.log パスおよびファイル名には、環境変数と DMM 変数を使用できます。	なし。

ネットワーク ログ オプション

設定可能なネットワーク ログ オプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
ネットワーク ログを作成する	ネットワーク ログを作成するかどうかを指定します。	DNA ファイルがデスティネーションマシンに適用されるときに、ネットワーク ログを作成するかどうかを定義します。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。
ネットワーク ログ レベル	ネットワーク ログに記録する詳細レベルを指定します。	ネットワーク ログに、どの程度詳細な情報を記録するか定義します。	0 = エラー 1 = 警告 2 = 情報 デフォルト値は「エラー」です。	なし。
ネットワーク ログをトレースする	ネットワーク トレース ログを作成するかどうかを指定します。	True の場合、情報がデバッグ トレース ウィンドウに表示され、ログ ファイルに保存されます。	True または False。 デフォルト値は False です。	なし。
ネットワーク ログの保存先のパス	ネットワーク ログを保存する場所を指定します。	ネットワーク ログを保存するディレクトリを指定します。	有効なパスおよびファイル名。 デフォルト値は「...My documents¥Logs¥%DNA_machine_name%_DNANetwork.log」です。 パスおよびファイル名には、環境変数と DMM 変数を使用できます。	なし。

メディア オプション

設定可能なメディア オプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
スパン	DNA ファイルの作成中にスパンを処理する方法を指定します。	マイグレーション中に、必要に応じて、CA DMM で複数のディスクをスパンする方法を指定します。	0 = DDNA によるスパニングの設定 1 = スパニングの実行 デフォルト値は [CA DMM によるスパニングの設定] です。	ファイルを HTTP パスに保存する場合は、自己解凍 DNA ファイルを作成できません。
スパン サイズ (KB)	1つのスパンファイルの最大サイズを指定します。	DNA ファイルの最大サイズを指定します (DNA ファイルの作成に使用できる容量)。	整数 デフォルト値は「2097152」です。	スパン オプションが「1 (スパニングの実行)」に設定されている場合に、ファイルの最大サイズを指定できます。

自己解凍のオプション

設定可能な自己解凍オプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
自己解凍ファイルを作成する	自己解凍 DNA ファイルを作成するかどうかを指定します。	True の場合は、CA DMM をインストールしなくてもデスクトップマシンに適用可能な、自己解凍 DNA ファイルが作成されます。	1 = True 2 = False デフォルト値は False です。	ファイルを HTTP パスに保存する場合は、自己解凍 DNA ファイルを作成できません。
自己解凍後に自動クリーンアップする	自己解凍 DNA ファイルの適用後に、自動的にクリーンアップするかどうかを指定します。	True を指定した場合、マイグレーションの完了後に一時ディレクトリに自己解凍されたファイルは、自己解凍プログラムによって削除されます。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	[自己解凍ファイルを作成する] が True であることが必要です。
DMM ライブラリインストーラを含める	DMM ライブラリインストーラを自己解凍ファイルに含めるかどうかを指定します。	ファイルを一部の NT ベースのオペレーティングシステムに適用する場合は、ライブラリファイルを含める必要があります。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	[自己解凍ファイルを作成する] が True であることが必要です。
自己解凍に含めるファイルのパス	自己解凍に含めるファイルの場所を指定します。	これは、自己解凍 INI ファイルのパスとファイル名です。この INI ファイルには、自己解凍ファイルに含める必要がある CA DMM コンポーネントのディレクトリが記録されています。	デフォルト値は、デフォルトのインストールパス 「Desktop Migration Manager¥Self Extractor Files¥SelfExtractingFileList.ini」です。	[自己解凍ファイルを作成する] が True であることが必要です。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
テンプレート ファイルのパス	自己解凍 DNA ファイルを適用する ときに使用する テンプレートを指 定します。	これは、自己解凍 DNA ファイルまたは別のテ ンプレートファイル の作成に使用するテン プレートファイルと 同じでも構いません。 適用時には、テンプレ ートのデスティネー ションセクションの みが読み取られます。	有効なパスおよび ファイル名。 デフォルト値は空 白です。 パスおよびファイ ル名には、環境変 数と DMM 変数を 使用できます。	[自己解凍 ファイルを作 成する]が True であることが 必要です。
DMM オプ ションファイ ルのパス	自己解凍 DNA ファイルを適用す るときに使用する オプションファ イルを指定しま す。	DNA ファイルを適用す るときに使用するオプ ションファイルのパス およびファイル名で す。	有効なパスおよび ファイル名。 デフォルト値は空 白です。 パスおよびファイ ル名には、環境変 数と DMM 変数を 使用できます。	[自己解凍 ファイルを作 成する]が True であることが 必要です。DNA ファイルを選 択的に（ファイ ル内の一部の ファイルまた は設定を）適用 する場合、[項 目が選択され ていない状態 で DNA ファイ ルを開く] オプ ション（[詳細] オプション）を 設定し、このオ プションに ファイルのパス と名前を指 定する必要があります。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
自己解凍ファイル用のコマンドライン	自己解凍 DNA ファイルを適用するときに使用するコマンドラインを指定します。	DNA ファイルを適用するときに使用するコマンドラインを指定します。 コマンドラインの例は以下のとおりです。 /A "%ThisFile%" /M /Disable "StartSheet" /Disable "SelectSystemSettings" /Disable "ApplicationsSettingsPage"	有効な CA DMM コマンドライン。 デフォルト値は「/M /A "%Thisfile%"」です。	[自己解凍ファイルを作成する]が True であることが必要です。
自己解凍アンドゥファイルを作成する	DNA ファイルが適用される場合に、自己解凍アンドゥファイルを作成するかどうかを指定します。	True の場合は、DNA ファイルがデスクトップワークステーションに適用される場合に、自己解凍アンドゥファイルが作成されます。	0 = False 1 = True デフォルト値は False です。	[自己解凍ファイルを作成する]が True であることが必要です。
自己解凍アンドゥファイル用のコマンドライン	自己解凍アンドゥファイルを起動するときに使用するコマンドラインを指定します。	マイグレーションを元に戻すときに使用するコマンドラインを指定します。	有効な CA DMM コマンドライン。 デフォルトの値は、/UNDO "%ThisFile%" です。	[自己解凍ファイルを作成する]が True であることが必要です。
自己解凍アンドゥに含めるリストのパス	自己解凍アンドゥに含めるファイルの場所を指定します。	自己解凍アンドゥの INI ファイルのパスおよびファイル名です。この INI ファイルには、自己解凍ファイルに含める必要がある CA DMM コンポーネントのディレクトリが記録されています。	デフォルト値は、デフォルトのインストールパス「Desktop Migration Manager¥Self Extractor Files¥SelfExtracting UndoFile List.ini」です。	[自己解凍ファイルを作成する]が True であることが必要です。

最後のマイグレーション結果オプション

設定可能な最後のマイグレーション結果オプションは以下の表のとおりです。
ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
前回のテンプレート	前回使用されたテンプレートのパスとファイル名。	Unicenter Desktop DNA では、該当マシンで前回使用されたテンプレートファイルが自動的に記録されます。	有効なパスおよびファイル名。	DMM Director で作成したプロセスを使用している場合、このフィールドは空白になります。
前回のイベントログ	前回作成されたイベントログのパスとファイル名。	CA DMM では、該当マシンで前回作成されたイベントログが自動的に記録されます。	有効なパスおよびファイル名。	DMM Director で作成したプロセスを使用している場合、このフィールドは空白になります。
前回のアンドゥログ	前回作成されたアンドゥログのパスとファイル名。	CA DMM では、該当マシンで前回作成されたアンドゥログファイルが自動的に記録されます。	有効なパスおよびファイル名。	DMM Director で作成したプロセスを使用している場合、このフィールドは空白になります。
前回の DNA ファイル	前回作成された DNA ファイルのパスおよびファイル名です。	CA DMM では、該当マシンで前回作成された DNA ファイルが自動的に記録されます。	有効なパスおよびファイル名。	DMM Director で作成したプロセスを使用している場合、このフィールドは空白になります。
前回の IP アドレス	リアルタイムマイグレーションの実行時に前回接続されたマシンの IP アドレス。	CA DMM では、リアルタイムマイグレーションの実行時に前回接続されたマシンの IP アドレスが自動的に記録されます。	有効なパスおよびファイル名。	DMM Director で作成したプロセスを使用している場合、このフィールドは空白になります。

クロスオーバーの設定オプション

設定可能なクロスオーバー ケーブル接続のオプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

クロスオーバー設定機能を使用するには、管理者としてログインする必要があります。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
クロスオーバーの試行回数	クロスオーバー ケーブルを使用してソースに直接接続を試行する回数を定義します。	CA DMM では、クロスオーバー ケーブルを使用して、定義された回数だけデスティネーションからソースへの接続を試行します。	1 ~ 45000 までの整数 デフォルト : 500	クロスオーバーが有効になっている必要があります。
クロスオーバー ネットワークを有効にする	ユーザが、クロスオーバー ケーブルで接続された 2 台のマシン間でリアルタイムマイグレーションを実行できるようにするかどうかを指定します。	クロスオーバーの設定に関するメニュー項目を有効にするかどうかを定義します。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。
クロスオーバーに関するプロンプトを表示しない	デスティネーションマシンをソースマシンに接続するように要求するメッセージを、ユーザに表示するかどうかを指定します。	True に設定すると、2 台のマシンを接続するように要求するメッセージボックスがデスティネーションマシンに表示されます。	1 = True 0 = False デフォルト値 : False	クロスオーバーが有効になっている必要があります。

セキュリティマイグレーション オプション

設定可能なグループセキュリティ オプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
グループ メンバシップをマイグレートする	マルチユーザマイグレーションを実行するときに、グループセキュリティをマイグレートするかどうかを指定します。	オンの場合、ユーザに関連付けられたすべてのグループセキュリティもマイグレートされます。	1 = オン 0 = オフ デフォルト値はオンです。	マルチユーザマイグレーションを実行する必要があります。
NTFS セキュリティ情報を格納する	DNA ファイルを作成するときに、NTFS セキュリティ情報を格納するかどうかを指定します。	DNA ファイルの作成時に、ファイルとフォルダのセキュリティ設定を格納するかどうかを定義します。	1 = オン 0 = オフ デフォルト値はオフです。	なし。
ファイルとフォルダのアクセス許可を適用する	ファイルとフォルダの NTFS セキュリティ情報を適用するかどうかを指定します。	DNA ファイルの適用時に、ファイルとフォルダのセキュリティ設定を適用するかどうかを定義します。	0 = 上書きしない 1 = 常に上書き 2 = 追加 デフォルト値は [上書きしない] です。	ファイルとフォルダのアクセス許可を格納するオプションをオンにして使用する必要があります。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
ローカルユーザーアカウントを作成する (注: アカウントはマルチユーザーマイグレーションでのみ作成され、アンドウできません)	マイグレートされる各ファイルまたはディレクトリの NTFS セキュリティ設定で参照されるユーザーのローカルユーザーアカウントを作成するかどうかを指定します。	True の場合、CA DMM は NTFS セキュリティ設定で参照される不明なユーザーアカウントごとにローカルユーザーアカウントを作成し、ACE (アクセス制御エントリ) を適用します。グループメンバーシップのマイグレーションと矛盾する可能性があるため、グループの作成はサポートされていません。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	[NTFS セキュリティ情報を適用する] オプションをオンにして使用する必要があります。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
ドメインユーザ プロファイルの 認証	ドメインユーザプロファイルをそのドメインサーバによって認証されるようにするかどうかを指定します。	有効な場合は、マイグレーション用に選 択されたドメイン ユーザプロファイ ルが、そのドメイン サーバによって認証 されます。無効な場 合は、ドメインユー ザプロファイルは 認証されません。こ のオプションが無効 になっている場合 は、アカウントは作 成できません。クロ スオーバーケーブ ル経由のマイグレー ションでは認証によ り遅延が発生する可 能性があるため、デ フォルトでは、クロ スオーバーケーブ ル経由のマイグレー ションでのみ認証が 無効になります。パ フォーマンスを最適 化する場合も、この オプションをオフに します。	[認証しない] - なし。 認証しません。 [常に認証] - 常 に認証します。 [クロスオー バーケーブ ル経由のマイグ レーションでは認証 しない] - クロス オーバーケーブ ル経由のマイグ レーションを実 行する場合のみ 認証を無効にし ます。 デフォルトは、 [クロスオー バーケーブ ル経由のマイグ レーションでは認証 しない] です。	

リビジョンのオプション

リビジョンのオプションの表に、設定できるリビジョン履歴のオプションのリストを示します。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
高速メディアの [リビジョン履歴] に表示される最大リビジョン数	[リビジョン履歴] ダイアログボックスを開いたときに最初に表示されるリビジョンの最大数を指定します。	高速メディアには、ローカルハードディスクドライブ、RAM ドライブ、およびネットワークドライブがあります。	任意の正の整数。 デフォルト値は「50」です。	なし。
低速メディアの [リビジョン履歴] に表示される最大リビジョン数	[リビジョン履歴] ダイアログボックスを開いたときに最初に表示されるリビジョンの最大数を指定します。	低速メディアには、CD-ROM ドライブ、カートリッジドライブ、フロッピードライブ、および Web ファイルがあります。	任意の正の整数。 デフォルト値は「5」です。	なし。

ユーザ プロファイル オプション

設定可能なユーザ プロファイル オプションは以下の表のとおりです。ブール値は、1 (True) または 0 (False) で指定します。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
孤立したアカウントプロファイルを表示する	孤立したアカウントプロファイルを、ユーザがマイグレーション対象として選択できるようにするかどうかを指定します。	True の場合は、ユーザアカウントが解決されていなくても、すべてのユーザプロファイルがマイグレーション可能なユーザのリストに組み込まれます。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
孤立したアカウントプロファイルの処理方法	マイグレーション中に解決されないアカウントプロファイルの処理方法を指定します。	ネットワーク上で検証できないユーザのアカウントプロファイルを CA DMM が処理する方法を指定します。	1 = 一時的に使用不可 0 = 削除済みと仮定 デフォルト値は、「削除済みと仮定 (0)」です。	なし。
Microsoft プロファイル命名規則を使用する	各プラットフォームに対し、Microsoft のプロファイル命名規則に従ってプロファイルを命名するかどうかを指定します。	ユーザ プロファイルをマイグレートする際、Microsoft の命名規則を使用してユーザ プロファイルの名前を変更するか、または、オペレーティングシステム間で一貫した命名規則を使用する機能がサポートされます。Microsoft の命名規則を使用しない場合は、マイグレートされたプロファイルの名前は「%username%.%domain%」になります。	1 = True 0 = False デフォルト値は True です。	なし。
ローミングユーザプロファイルを作成する	ユーザを Active Directory にマイグレートするときに、ユーザプロファイルをローミングユーザプロファイルとして作成するかどうかを指定します。	True の場合は、ユーザプロファイルはローミングユーザプロファイルとして作成されます。	1 = True 0 = False デフォルト値は False です。	なし。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
移動プロ ファイルの パス	移動ユーザ プロファ イルへのパスを識別 するかどうかを指定 します。	Active Directory にローミン グ ユーザ プロファイルを 作成するときに、[プロ ファイルパス] ユーザ プ ロパティの設定に使用さ れるベース フォルダのパス を定義します。実際の ローミングプロファイル のパスはユーザ名に 応じて変わります。	デフォルト値は 既存の共有パス です。 パスが空の場合 は、プロファイル を作成しても[プ ロファイルパ ス] ユーザ プロ パティは設定さ れません。	[ローミン グ ユーザ プロファイ ルを作成す る] オプ ションがオ ンになって いる必要が あります。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
既存のプロファイルを使用してユーザの移動先を解決する	ディスク上のアカウントプロファイル情報を使用して、ユーザツリーのデスティネーションパスを解決するかどうかを指定します。	ユーザデスティネーションで、ネットワーク情報に基づいて欠落しているアカウントを作成するか、または既存のプロファイル情報のみを使用するかを設定します。クロスオーバーケーブル経由のマイグレーション中、またはネットワーク解決が不可能である場合に、既存のプロファイルにアカウントをリダイレクトすることができます。利用可能な既存のプロファイルすべてに対してデスティネーションパスが照合され、ユーザパスが同じである最初のプロファイルが検出されます。ドメインまたはユーザ名はワイルドカードで照合できますが、 Active Directory 組織ユニットのワイルドカード照合は、ネットワークにアクセスできない限り実行できません。通常は、ネットワークにアクセスしないとアカウントプロファイルに対してドメイン名を解決できないため、ワイルドカードによるドメインの照合が必要となります。ユーザ名のみを指定すると、ローカルユーザアカウントプロファイルのみを使用してデスティネーションパスが解決されます。	True または False。 デフォルト値は False です。	なし。

データ保護オプション

データの保護レベルが示されたデータ保護オプションは以下の表のとおりです。この表には、リアルタイムマイグレーションで交換される DNA / 自己解凍ファイルとデータを暗号化するためのオプションも示されています。暗号化は、AES (Advanced Encryption Standard) 192 暗号化アルゴリズムを使用して行われます。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
遅延マイグレーションのデータ保護レベル	DNA ファイルの保護方法を指定します。	ユーザデータを DNA ファイルに格納するときに使用する保護レベルを規定します。	なし クイック 安全 最も安全 デフォルト値は [なし] です。	[クイック] と [安全] のオプションでは、UI またはコマンドラインでパスワードを指定する必要があります。 [最も安全] オプションでは、UI ([FIPS キーパス] フィールド) またはコマンドラインのいずれかで暗号化キーを指定する必要があります。
FIPS キーパス	FIPS キーは、DNA ファイルの作成中にデータを暗号化するために使用します。	[最も安全] モードの暗号化でデータを暗号化するために使用するキーのパスを指定します。	有効なファイルパス	[最も安全] モードの暗号化を選択する必要があります。
暗号化キーの回復を有効にする	暗号化に使用したキーが失われた場合、回復しますか?	CA DMM は、暗号化されたキーを DNA ファイルに格納し、要求時にそのキーを回復します。	True または False デフォルト値は False です。	パスワードの暗号化用に公開鍵が必要です。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
遅延マイグレーションのデータ保護レベル	DNA ファイルの保護方法を指定します。	ユーザデータを DNA ファイルに格納するときに使用する保護レベルを規定します。	なし クイック 安全 最も安全 デフォルト値は [なし] です。	[クイック]と[安全] のオプションでは、UI またはコマンドラインでパスワードを指定する必要があります。 [最も安全] オプションでは、UI ([FIPS キーパス] フィールド) またはコマンドラインのいずれかで暗号化キーを指定する必要があります。
FIPS キーパス	FIPS キーは、DNA ファイルの作成中にデータを暗号化するために使用します。	[最も安全] モードの暗号化でデータを暗号化するために使用するキーのパスを指定します。	有効なファイルパス	[最も安全] モードの暗号化を選択する必要があります。
公開鍵のパス	この公開鍵は、DNA ファイルの作成中にパスワードを暗号化するために使用します。	回復するには、対応する秘密鍵が必要です。	有効なファイルパス	なし
リアルタイムマイグレーション中にネットワーク経由で転送されるデータを暗号化します。	リアルタイムマイグレーション中にネットワーク経由でのデータ転送を暗号化するかを指定します。	リアルタイムマイグレーション中のデータ転送を暗号化するかを指定します。	True または False デフォルト値は False です。	なし

注意： 設定の取得中に暗号化オプションを選択し、その後 CA Merger and Acquisition Tool を使用してマイグレーションを実行する場合、DMM オプションファイルにキーパスを定義したことを確認する必要があります。このツールが DMM オプションファイル内でキーパスを発見しなかった場合は、エラーメッセージを表示せずにマイグレーションが終了します。これは、CA Merger and Acquisition Tool はマイグレーションをサイレントモードで実行するため、キーパスに関するメッセージを表示できないからです。ただし、ログファイルに以下のエラーメッセージが記録され、DMM オプションファイル内でキーパスが見つからないためマイグレーションが失敗したことが示されます。

Creation failed for "<DNA File Name>": No encryption key is available. A well-known encryption key was returned.

Merger and Acquisition

[Merger and Acquisition] オプションを使用すると、Merger and Acquisition ツールの再起動後にマイグレーションが開始するまで待機する時間を指定できます。

名前	説明	コメント	有効な値	依存関係
Windows レジストリ NTFS セキュリティのマッピング	レジストリに対して NTFS セキュリティ権限のマッピングを行うかどうかを指定します。	ユーザ固有のセキュリティ権限がどのレジストリ キーにも設定されていない場合、パフォーマンスを改善するために NTFS セキュリティのマッピングをオフにすることができます。ただし、ユーザ固有のセキュリティ権限が存在する場合、オフに設定しないことをお勧めします。	True または False デフォルト値は False です。	なし。
再起動時の待機時間 (分):	Merger and Acquisition ツールの再起動後にマイグレーションが開始するまで待機する時間を指定します。	再起動後にコンピュータがドメインに接続するまで時間がかかることがあります。待機時間はこの時間によって異なります。	デフォルト値は「3.5」です。	なし。

第 8 章: コマンドラインを使用した DNA ファイルの検証

この章では、コマンドラインを使用した DNA ファイルの検証（クイック検証および確実検証）について説明します。

コマンドラインの構文

コマンドラインを実行するための構文は以下のとおりです。

```
"installation path\DNAExplorer.exe" /switch [DNA file path]"
```

コマンドラインを使用した DNA ファイルの検証

DNA ファイルの破損を検出するために DNA ファイルを検証することができます。

コマンドラインを使用して DNA ファイルを検証するには、コマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを入力します。

```
installation path\DNAExplorer.exe [/VQ|/VS] [/X] <DNA file path>
```

/VQ (クイック検証)

ファイルを通常の方法で開き、チェックサム情報が作成された DNA ファイルに対してチェックサムテストを実行します。

/VS (確実検証)

/VQ と同じテストを実行し、さらに DNA ファイル内に格納されているすべてのファイルレコードを検証してデータ整合性を確保します。

/X

検証後に **DMM Explorer** を終了し、アプリケーションのリターンコードとして、コマンドラインで指定されたファイルを開こうとした結果発生したすべてのエラーを返します。リターンコード **0** は成功したことを示し、**0** 以外の値は **Win32** のエラーコードを表します。

例:

```
DNAExplorer.exe /VQ "c:¥myFile.dna"
```

```
DNAExplorer.exe /VS /X "c:¥myFile.dna"
```

```
DNAExplorer.exe /?
```

第 9 章: バッチ ファイルとラツパ ファイル

テンプレートを使用すると、マイグレーションを社内の異なる部署や特定の個人用にカスタマイズして自動化できます。

DMM Template Editor は、マイグレーション設定を簡単に再利用するための強力なツールです。管理者は、マイグレートするマシンを操作しなくても、マイグレーションテンプレートを作成できます。

テンプレートは **CA DMM** ウィザードを使用して作成します。マイグレートを実行せずにテンプレートを保存するには、[設定] タブと [デスティネーション] タブで設定とデスティネーションを指定してから、[ファイル] - [テンプレートの保存] を選択します。

テンプレートは **DMM Template Editor** で作成して編集することもできます。

テンプレートは、ユーザ インターフェースの [テンプレート ファイルを開く] ページに表示されるリストから簡単に選択できます。テンプレート リストは、ローカル マシンのマイ ドキュメント ディレクトリをデフォルトの参照先として作成されます。

デフォルトのパス (ローカルのマイ ドキュメント フォルダ)、**DMM** オプション ファイル、または **DMM Template Editor** ([テンプレート ファイルのパスを検索する] フィールド) にテンプレートがない場合、[テンプレート] ページは表示されません。

[テンプレート ファイルを開く] ページが表示されない場合にテンプレートを開くには、ソース システムに接続するか、または **DNA** ファイルを開いて、[開始] タブの手順を完了する必要があります。テンプレートがロードされたら、[マイグレーション] タブを開いてすぐにマイグレーションを開始できます。

現在のテンプレートを保存するには、[ファイル] - [テンプレートの保存] を選択し、[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスでテンプレートのファイル名を指定します。

注: テンプレート ファイルの拡張子は **.dtf** です。

自動化: バッチ ファイルとラップ ファイル

バッチ マイグレーションでは、マイグレーションの一部として必要な他の処理を CA DMM に統合できるため、大量のアップグレード、展開、およびマイグレーションに適しています。場合によっては、マイグレーションをより詳細に制御する必要があります。これは、テキスト エディタを使用して手作業でオプション ファイルを変更して行うか、または ATL COM インターフェースを使用してプログラムで行うことができます。

すべてのログの場所やログ レベルなどの設定は、ラップ アプリケーションによってプログラムで設定できます。

ラップ ファイルまたはバッチ ファイルを使用して、最後のテンプレート、DNA ファイル、およびマイグレーション用の IP 接続を検索できます。この検索を行い、DNA ファイルを処理または適用する各マイグレーションに固有の記録を保持するには、各マイグレーションのデフォルトのオプション ファイルをコピーする必要があります。

DMM 設定は、DMM オプション ファイル (DNAOptions.xml) に静的に保存できます。このオプション ファイルは、CA DMM のデフォルトの動作を定義する XML ファイルです。

デフォルトのオプション ファイルは、テキスト エディタまたは XML エディタを使用してカスタマイズすることができ、ラップ からアクセス可能な場所に置くことができます。ラップ は、マイグレーションに固有のフォルダにそのファイルをコピーします。そして、マイグレーションに固有のバッチ ファイルの名前とパスを付加した /O スイッチを使用して CA DMM をコールします。これを行うには、以下のコマンドライン オプションを使用します。

```
/OPTIONSFILE [/O] D:%XML file path%XMLfileName.xml
```

CA DMM は、すべての操作にこの XML ファイルを使用します。XML ファイルに書き込まれるすべての項目 (最後のテンプレート ファイル、最後の DNA ファイル、最後の IP アドレス) は、マイグレーションの完了後に保存されます。CA DMM が完了すると、XML ファイルに入力するために使用した同一のメカニズム (ATL COM オブジェクト) を使用して、ラップ は XML ファイルから必要な任意の情報を取得することができます。

XML ファイルにアクセスするために ATL COM オブジェクトを使用すると、ラップ は XML ファイルに必要な情報を書き込んだり、XML ファイルから必要な情報を取得したりすることができます。

DMM オプション ファイルへのプログラムからのアクセス

DNA オプション ファイルにプログラムからアクセスして、オプションを操作できます。

DNAXMLAccess.dll は、IDispatch インターフェースをサポートする ATL COM DLL です。このファイルを使用すると、Visual Basic プログラムや、ActiveX コントロールをサポートするスクリプト言語からコンポーネントを直接コールすることができます。この方法でアクセスするためのメンバ関数の例を以下に示します。

- `bstrFile` で指定したファイルを開く。このファイルは、DNAOptions.xml 形式の有効な DMM オプション ファイルである必要があります。

```
HRESULT SetFile([in] BSTR bstrFile);
```

- `bstrOption` で指定した文字列オプションに `bstrValue` 値を追加するか、または `bstrValue` 値で置換する。

```
HRESULT SetStringOption([in] BSTR bstrOption, [in] BSTR bstrValue);
```

- `bstrOption` で指定した文字列オプションを取得する。

```
HRESULT GetStringOption([in] BSTR bstrOption, [out, retval] BSTR* bstrValue);
```

- `bstrOption` で指定したブール値オプションに `fValue` 値を追加するか、または `fValue` 値で置換する。

```
HRESULT SetBoolOption([in] BSTR bstrOption, [in] VARIANT_BOOL fValue); [out, retval] VARIANT_BOOL* fValue);
```

- `bstrOption` で指定したブール値オプションを取得する。

```
HRESULT GetBoolOption([in] BSTR bstrOption,
```

- `bstrOption` で指定した整数オプションに `lValue` 値を追加するか、または `lValue` 値で置換する。

```
HRESULT SetIntOption([in] BSTR bstrOption, [in] LONG lValue);
```

- `bstrOption` で指定した整数オプションを取得する。

```
HRESULT GetIntOption([in] BSTR bstrOption, [out, retval] LONG* lValue);
```

Visual Basic の例 :

- Visual Basic を使用して DMM オプションにアクセスするには以下のように記述します (疑似コード)。

```
REM Create the CPM object for accessing  
Options file  
DIM XMLAccess As CNAXMLAccessor  
Set XMLAccess = New DNAXMLAccessor
```

```
REM Set the file to use for subsequent  
XML calls, use the file path you copied above.
```

```
XMLAccess.SetFile
"c:¥SomeFile¥Path¥To¥MigrationSpecific¥
XMLFile.xml"
```

```
REM Set any options that need to be customized for this migration
REM BOOL, INT, and STRING options are set like this:
XMLAccess.SetBoolOption "Network log"
```

- コマンドラインで 255 文字の制限を越えてしまうときに、DMM オプションファイルにアクセスするには以下のように記述します。

```
XMLAccess.SetStringOption "command line",
"/D" "c:¥MyDNAFile.DNA" "/T"
"C:¥MyTemplateFile.dtf" /M /X"
```

- **Get*** コールを使用してオプションファイルからマイグレーション後のデータを取得するには以下のように記述します。

```
REM Get any options that need to be retrieved after this migration
REM BOOL, INT, and STRING options are retrieved like this:
Dim StringVal As String
DIM BoolVal as Boolean
Dim IntVal As Integer
BoolVal = XMLAccessGetBool-Option("Network log enabled?")
StringVal = XMLAccess.GetStringOption("Network log level")
```

ファイルタイプ

CA DMM でウィザードを使用したり、詳細な自動化機能を使用すると、DNA ファイルやログファイルなど、さまざまなタイプのファイルが作成されます。上級ユーザは、CA DMM で使用するテンプレート、スクリプトファイル、Windows バッチファイルなどのファイルも作成できます。

CA DMM で作成または使用されるファイルタイプは以下の表のとおりです。「C:¥」は、Windows の起動ドライブを表します。

ファイルタイプ	既定のロケーション	拡張子	説明
実行可能ファイル	インストールパス	.exe	CA DMM および DMM ツールの実行可能ファイルです。
スクリプト (コンパイル 済み)	<インストールパス >¥Application Scripts <インストールパス >¥System Scripts	.dnajso	ソフトウェアと共に配布されるコンパイル済みの CA DMM スクリプトです。

ファイルタイプ	既定のロケーション	拡張子	説明
スクリプト (未コンパイル)	なし	.dnajs	コンパイルされていない（編集可能またはカスタム）スクリプトです。
設定ファイル	<インストールパス >%Settings.xml	.xml	XML ファイルです。
オプション ファイル	<インストールパス >DNAOptions.xml	.xml	DMM オプションが格納されている XML ファイルです。
テンプレート ファイル	マイ ドキュメント フォルダ	.dtf	マイグレーションされる CA DMM 設定とデスティネーション情報を指定するテンプレート ファイルです。
DNA ファイル	マイ ドキュメント フォルダ	.dna	データ、設定、アプリケーション設定などすべてのマイグレーション情報が格納された DNA ファイルです。
イベント ログ ファイル	<インストールパス >%Logs	.log	ファイル名は以下のようになります。 ¥%DNA_User_Name%_DNAEvent_%DNA_Date%DNA_Tlme%.Log イベント ログ ファイルには、マイグレーション中に発生したイベントが格納されません。
デバッグ ログ ファイル	<インストールパス >%Logs	.log	ファイル名は以下のようになります。 ¥%DNA_User_Name%_DNADebug_%DNA_Date%DNA_Tlme%.Log デバッグ ログ ファイルには、マイグレーションに関する詳細な情報が格納されません。
		.hdr	CA DMM ヘッダ ファイルです。
自己解凍 DNA ファイル	マイ ドキュメント フォルダ	.exe	CA DMM で自己解凍ファイルとして作成されたファイルです。CA DMM をデスティネーション システムにインストールしなくてもマイグレーションを実行できます。

第 10 章: プリンタのマイグレーション

CA DMM では、デスクトップマイグレーションの実行中に、ソースマシンからデスティネーションマシンにプリンタ設定をマイグレートできます。

プリンタのマイグレーションは、インストールディレクトリにある以下のファイルによって CA DMM でサポートされています。

ファイル	フォルダ
DNAPrinter.dll	ScriptExtensions
DNAScriptExtension.dll	ScriptExtensions
Printers.dnajs0	システム スクリプト

DNAPrinter.dll

DNAPrinter.dll ファイルには、ドライバの追加、およびローカルプリンタとネットワークプリンタへの再接続に必要なすべてのコードが格納されています。

ネットワーク設定のマイグレーションを行うとネットワークの状態が変化するため、ネットワーク設定のマイグレーション後にはネットワークプリンタをセットアップする必要があります。このため、インストールが失敗した場合は、再起動後もう一度インストールする必要があります。この操作を行うために、マイグレートした各ユーザの Temp ディレクトリに DNAPrinter.dll ファイルがコピーされ、再起動時にその場所から実行されます (Windows のすべてのバージョンに含まれている RunDLL32.exe を使用します)。

DNAPrinter.dll ファイルは、CA DMM がインストールされているディレクトリの [Script Extensions] フォルダにあります。

DNAScript

DNAScriptExtension.dll ファイルには、スクリプト言語でサポートされていないプリンタドライバのマイグレーションに必要なコードが格納されています (ユーザの Temp ディレクトリの場所の取得など)。これは多くのスクリプトで使用される一般的なスクリプト拡張 DLL です。

DNAScriptExtension.dll ファイルは、CA DMM がインストールされているディレクトリの ScriptExtensions フォルダに配置されます。

Printers.dnajso

Printers.dnajso ファイルは、CA DMM をインストールした System Scripts フォルダにあります。このファイルには、必要に応じてドライバをマイグレートし、インストール処理を実行するための基本コードが含まれています。

プリンタのログ メッセージ

CA DMM は、イベント ログ メッセージを返します。イベントメッセージは、マイグレーション中に問題が発生した場合に、マイグレーションの完了後に表示されます。

メッセージに関係ない問題が発生した場合、プリンタのマイグレーションのトラブルシューティングには、デバッグ ログを使用してください。

Windows 7 または Windows 8 上のネットワークプリンタのマイグレート

Windows 7 または Windows 8 コンピュータ上のネットワークプリンタをマイグレートする前に、ドメイン コンピュータ上のセキュリティ設定を変更する必要があります。

次の手順に従ってください:

1. ドメイン コンピュータ上のユーザに、マイグレートするネットワークプリンタサーバへのアクセス権があることを確認します。
2. コマンドプロンプトを開いて、**gpedit.msc** を実行します。
3. [ローカルコンピューターポリシー] - [コンピューターの構成] - [管理用テンプレート] - [プリンター] をクリックします。
4. 右側のペインで、[ポイントアンドプリントの制限] オプションをダブルクリックします。
5. [ポイントアンドプリントの制限] ダイアログボックスで以下のオプションを選択します。
 - [有効] オプションを選択します。
 - [オプション] - [セキュリティの確認] の以下のオプションで「警告または昇格時のプロンプトを表示しない」を選択します。
 - 新しい接続用にドライバーをインストールした場合
 - 既存の接続用にドライバーを更新した場合
6. 変更を保存します。
7. コマンドプロンプトで、以下のコマンドを実行します。

```
gpupdate /force
```

注: 更新が失敗する場合は、ご使用のマシンをドメインから削除し、再度ドメインに追加してから再試行します。

8. 更新が成功したら、コンピュータを再起動します。

ネットワークプリンタをドメイン コンピュータにマイグレートできるようになりました。

第 11 章: Web 更新

インターネット接続を利用できる場合、**Web Update** を使用すると、更新されたスクリプトを自動的にダウンロードできます。

この機能を起動する方法は 2 つあります。

- [ヘルプ] メニューの [Web Update] をクリックする
- [スタート] メニューをたどり、[Web Update] を選択する

スクリプトは、システム設定やアプリケーション設定を追加したり、アプリケーションの新バージョンアップや新アプリケーションをサポートしたりするために更新されます。アプリケーションスクリプトとシステムスクリプトを更新するには、**CA DMM** がインストールされている必要があります。

第 12 章: ネットワーク アクセス

手動または自動でマイグレーションを実行するときに、ネットワーク経由で CA DMM にアクセスできます。

ネットワーク経由で CA DMM にアクセスするマシンには、以下のコンポーネントがあらかじめインストールされているか、CA DMM の実行時にインストールされる必要があります。

必要なコンポーネント	最低限必要なバージョン
Internet Explorer	4.72.3110.0
msxml3.dll	8.0.5226.0
oleaut32.dll	2.40.4275.1
mfc42.dll	6.0.8665.0
msvcrt.dll	6.1.8637.0

第 13 章: サードパーティの使用許諾契約書

サードパーティの使用許諾契約書はマニュアル選択メニューから入手できます。